

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

【将来予測 2017～2028年】

▶18歳人口予測 P3～P8

- ・2017年118.0万人→2028年106.6万人(11.4万人減少)
- ・特に2019～2023年の5年間で10.4万人と大きく減少
- ・減少率が高いのは東北(2017年比80.6%)、減少数が多いのは近畿(25555人減)

【経過推移 2007～2016年 (地元残留率は2008～2017年)】

▶進学率(現役・過年度)の推移 P9～P14

大学進学率(現役)

- ・2007年44.1%→2016年49.3%(5.2ポイント上昇)
- ・上昇率が高いのは、1位北海道(118.5)、2位東北(115.0)、3位南関東(113.6)※
- ・進学率が高いのは南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率(現役)

- ・2007年6.7%→2016年5.0%(1.7ポイント低下)
- ・低下率が高いのは、1位南関東(64.3)、2位近畿(68.3)、3位中国(69.9)※
- ・進学率が高いのは、北陸、甲信越、九州沖縄

専門学校進学率(現役)

- ・2007年16.8%→2016年16.3%(0.5ポイント低下)
- ・ただし最も低下したのは2009年14.7%で、そこから徐々に回復
- ・低下率が高いのは、1位北陸(92.5)、2位北関東(95.1)、3位東北(95.6)※
- ・進学率が高いのは、甲信越、北海道、九州沖縄

都道府県別進学率(現役・2016年)

- ・大学進学率1位は東京、短大進学率1位は長野、専門学校進学率1位は沖縄

大学・短期大学・専門学校進学率(現役・過年度比較)

- ・現役と過年度の進学率の差は、大学は2.7ポイント(過年度が高い)、短期大学はほとんど差なし、専門学校は6.0ポイント(過年度が高い)

▶地元残留率の推移 P15～P25

- ・大学進学者の地元残留率は、2008年42.4%→2017年44.1%(1.7ポイント上昇)
- ・短期大学進学者の地元残留率は、2008年65.2%→2017年69.6%(4.4ポイント上昇)
- ・2017年の大学進学者の残留率1位は愛知(72.0%)、短期大学進学者の残留率1位は福岡(92.2%)

注) ※の()内の数値は、2007年を100としたときの2016年の指数

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研
<http://souken.shingakunet.com/>

データについて

■分析にあたって

- ① 18歳人口概算は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・18歳人口＝3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数
 - ・中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者　すべて含む
- ② 表内の「年度」に属する18歳とは、その年の4月現在の高校3年生(その年度に卒業を迎える高校3年生)を指す。
- ③ 表内の「割合」とは、グラフ開始年度の値を100とおいた際の増減を示す。
- ④ 進学率とは、進学人数(大学・短大・専修学校専門課程)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)で算出した。
- ⑤ 残留率とは、自県内の進学人数(大学・短大)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)で算出した。
- ⑥ 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。
- ⑦ 各分析の該当期間については、速報段階では数値が公表されないものもあるため、分析によっては期間が一致しない場合がある。
- ⑧ エリア別分析における各エリアに含まれる都道府県については以下の通り。

- 北海道　：北海道
- 東北　　：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 北関東　：茨城、栃木、群馬
- 南関東　：埼玉、千葉、東京、神奈川
- 甲信越　：新潟、山梨、長野
- 北陸　　：富山、石川、福井
- 東海　　：岐阜、静岡、愛知、三重
- 近畿　　：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中国　　：鳥取、島根、岡山、広島、山口
- 四国　　：徳島、香川、愛媛、高知
- 九州沖縄：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

<年度早見表>

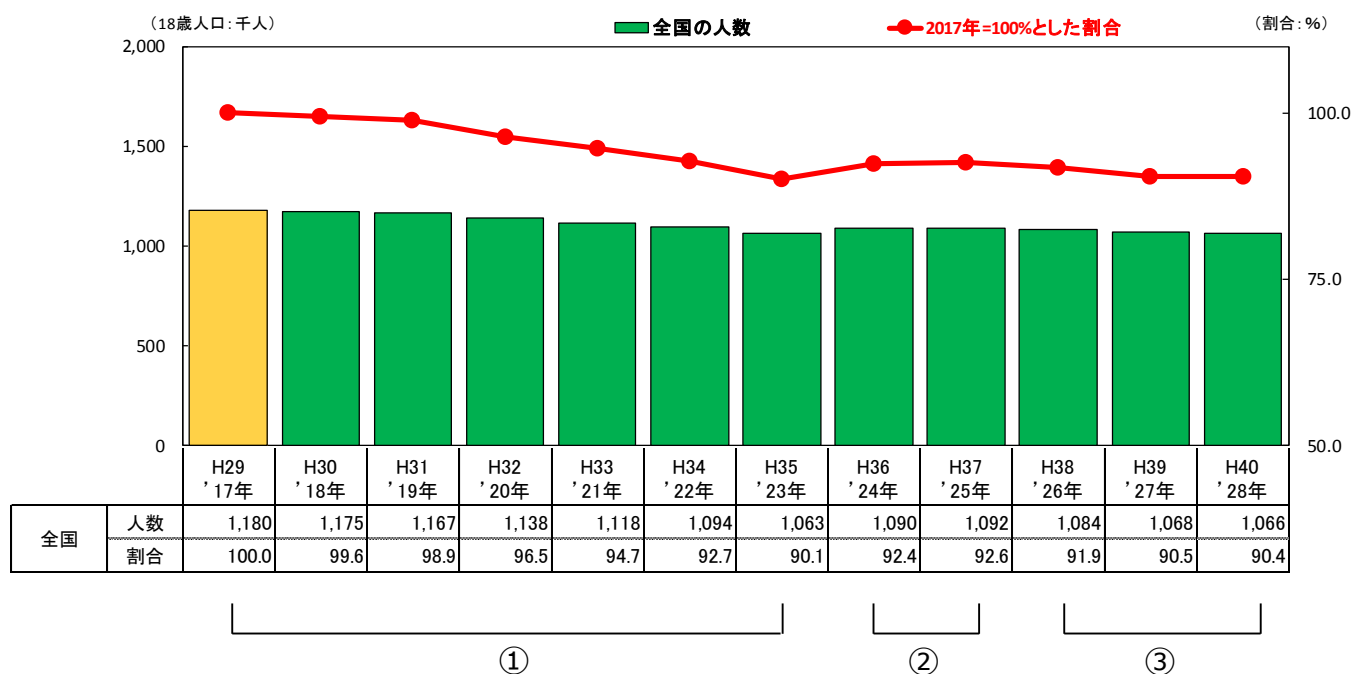
学校基本調査		18歳人口	表内	3年前の中学・中等教育卒業生
		全体	年度	
確報値	公表	1,179,808	H29' 17年	H27年(2015年) の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者
確報値	公表	1,174,801	H30' 18年	H28年(2016年) の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者
速報値	予測	1,167,264	H31' 19年	H29年(2017年) の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者(全国のみ)+義務教育学校卒業生数
速報値	予測	1,138,252	H32' 20年	H29年(2017年) の中学校3年生+中等教育学校前期課程3年生の児童数
速報値	予測	1,117,821	H33' 21年	H29年(2017年) の中学校2年生+中等教育学校前期課程2年生の児童数
速報値	予測	1,093,733	H34' 22年	H29年(2017年) の中学校1年生+中等教育学校前期課程1年生の児童数
速報値	予測	1,063,487	H35' 23年	H29年(2017年) の小学校6年生児童数
速報値	予測	1,090,217	H36' 24年	H29年(2017年) の小学校5年生児童数
速報値	予測	1,091,937	H37' 25年	H29年(2017年) の小学校4年生児童数
速報値	予測	1,083,658	H38' 26年	H29年(2017年) の小学校3年生児童数
速報値	予測	1,067,881	H39' 27年	H29年(2017年) の小学校2年生児童数
速報値	予測	1,066,235	H40' 28年	H29年(2017年) の小学校1年生児童数

18歳人口予測(全体：全国：2017～2028年)

■ 2017年118.0万人→2028年106.6万人(11.4万人減少)

・全国の18歳人口は、以下の3段階を経て経年的に減少する。

- ① 2017～2023年：7年間かけて減少(118.0万人から106.3万人、11.7万人減少)。
特に2019～2023年の5年間で10.4万人と大きく減少する。
- ② 2024～2025年：2024年に109.0万人(前年比2.7万人増)と増加に転じ、
2025年は109.2万人とほぼ変わらず。
- ③ 2026～2028年：2026年に108.4万人(前年比0.8万人減)と再びやや減少に転じ、
2028年に106.6万人となる。



18歳人口予測(男女別：全国：2017～2027年)

■男女ともに11年間で約10%の減少

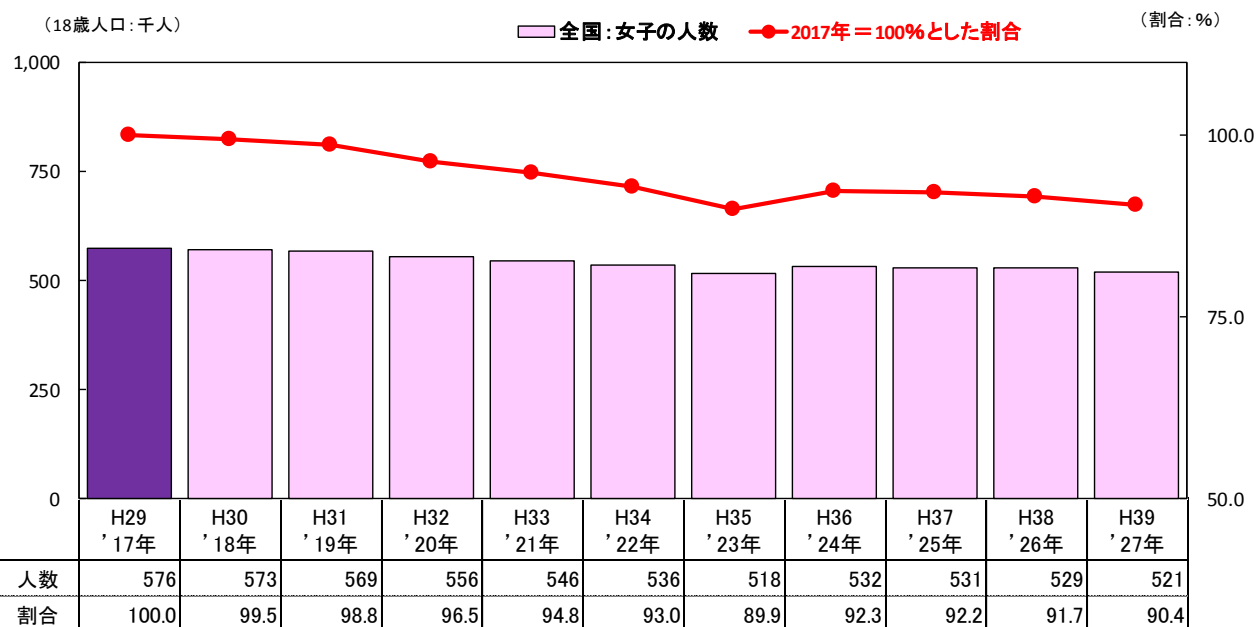
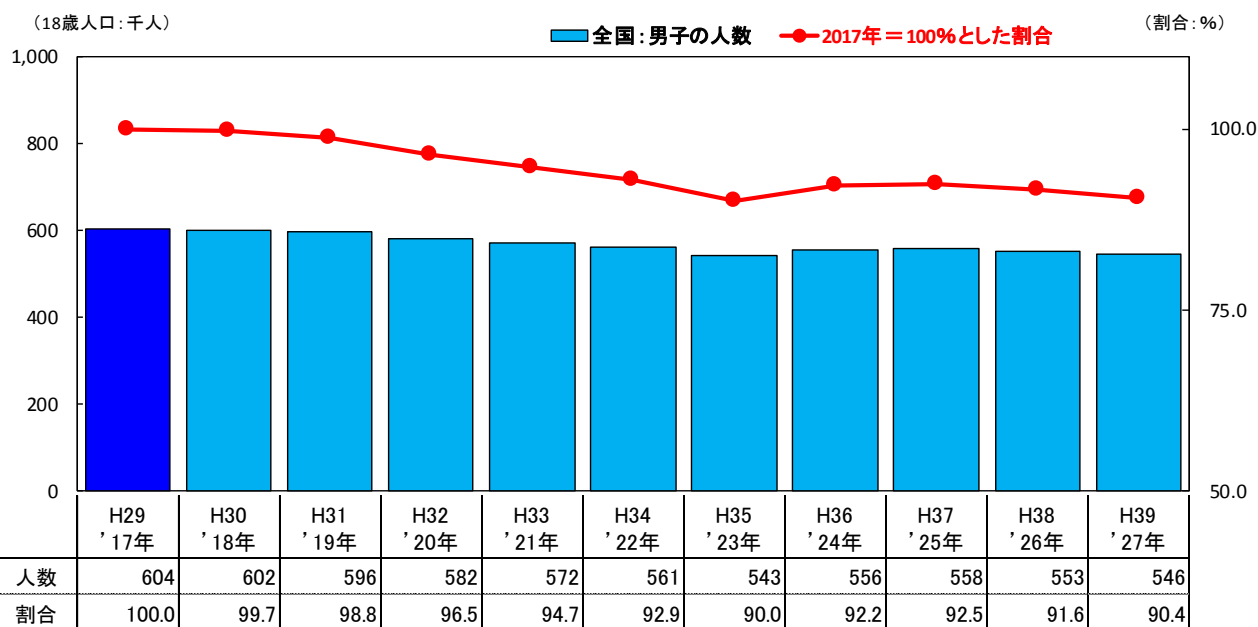
減少のスピード・時期は男女差がほとんどない。

男子

- ・2017年60.4万人から2027年54.6万人と、11年間で5.8万人減少。
- ・全体傾向と同様に2023年が11年間で最も少ない54.3万人となり、その後0.3万人増加する。

女子

- ・2017年57.6万人から2027年52.1万人と、11年間で5.5万人減少。
- ・男子と同様に2023年が51.8万人で最も少なくなり、その後0.3万人増加する。

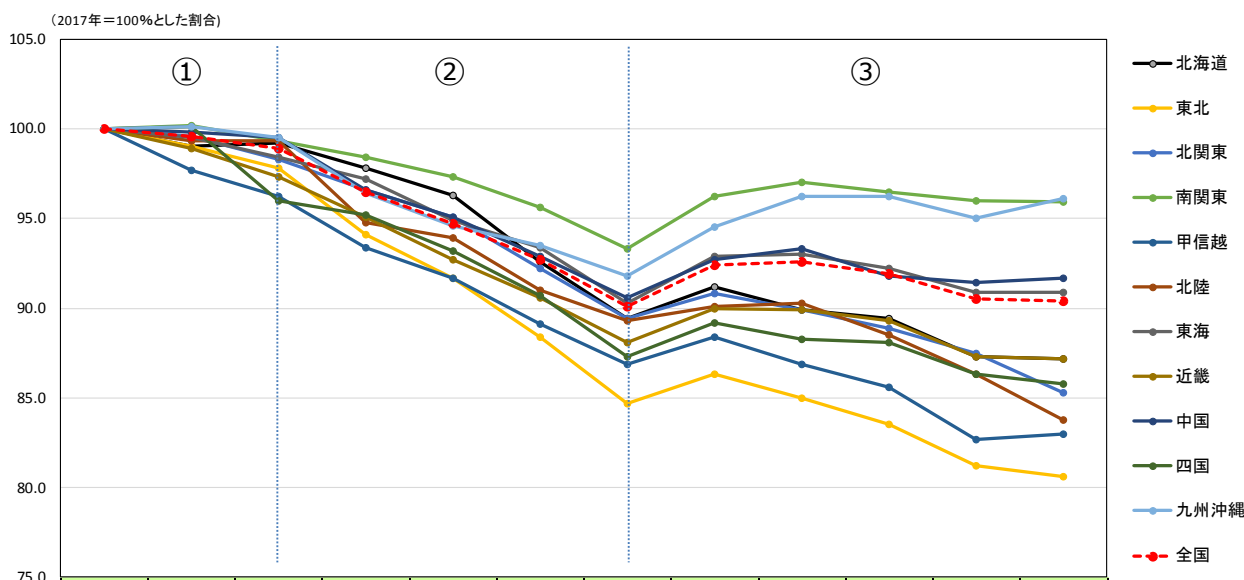


18歳人口予測(全体：エリア別：2017～2028年)

■減少率が高いのは東北(2017年比80.6%)、減少数が多いのは近畿(25555人減)

- ・減少率が高いのは、1位東北(2017年比80.6%)、2位甲信越(83.0%)、3位北陸(83.8%)。
- ・減少数が多いのは、1位近畿(25555人減)、2位東北(16566人減)、3位東海(13426人減)。
- ・減少率が低いのは、1位九州沖縄(96.1%)、2位南関東(95.9%)、3位中国(91.7%)。
- ・エリア別の18歳人口は、以下の4段階を経て減少する。

- ① 2017～2019年：全国では約1.3万人減少するが、エリアごとに増減が異なる時期
- ② 2019～2023年：全国では約10.4万人減少するが、エリアごとに増減が異なる時期
- ③ 2023～2028年：全国で最低となる2023年の水準から回復またはさらに減少する時期
2023年より2028年の人口が増加するのは、南関東、東海、中国、九州沖縄。
北海道、東北、北関東、甲信越、北陸、近畿、四国はさらなる減少に転じる見込み。

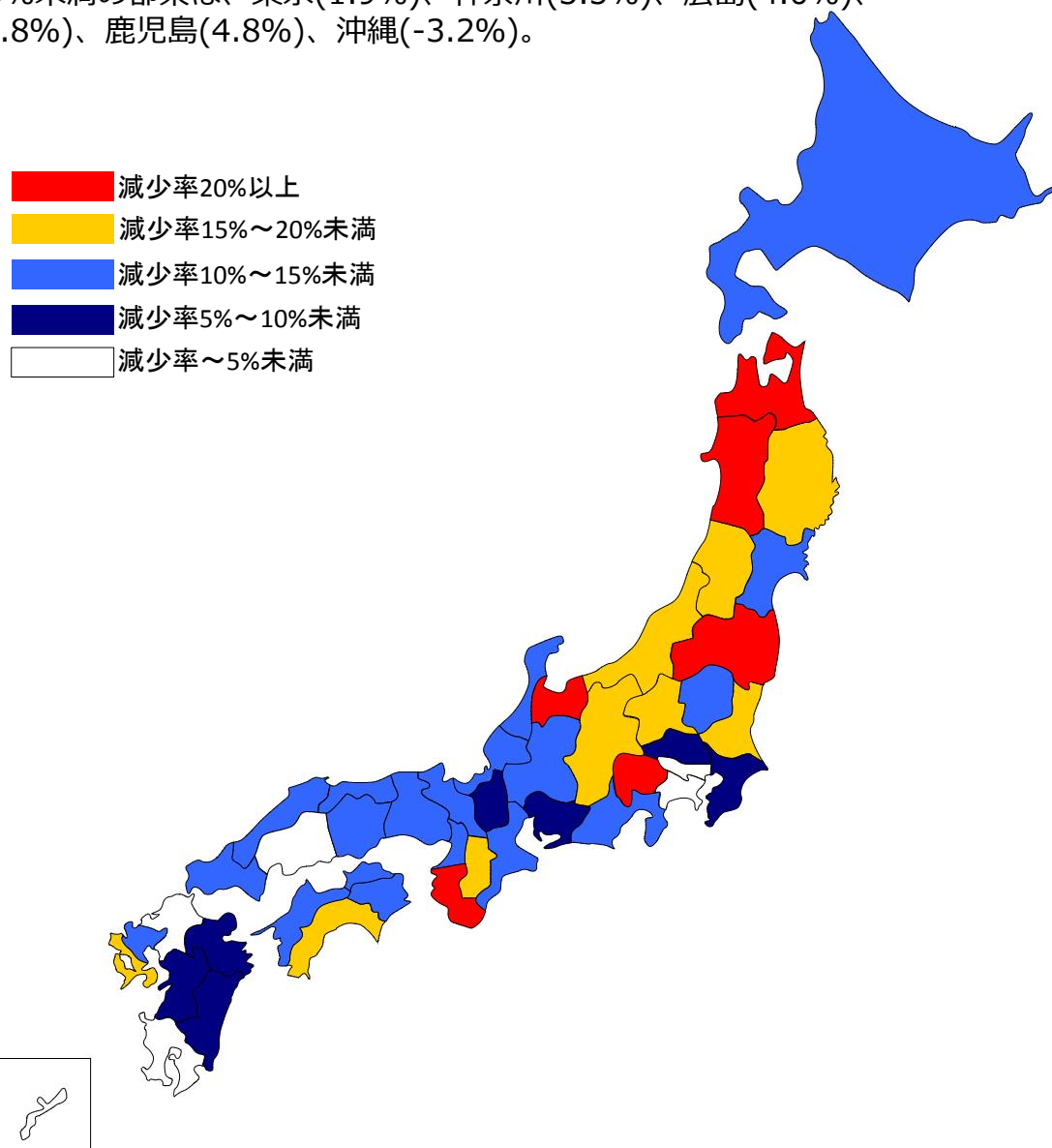


		H29 '17年	H30 '18年	H31 '19年	H32 '20年	H33 '21年	H34 '22年	H35 '23年	H36 '24年	H37 '25年	H38 '26年	H39 '27年	H40 '28年
全国	人数	1,179,808	1,174,801	1,167,264	1,138,252	1,117,821	1,093,733	1,063,487	1,090,217	1,091,937	1,083,658	1,067,881	1,066,235
	割合	100.0	99.6	98.9	96.5	94.7	92.7	90.1	92.4	92.6	91.9	90.5	90.4
北海道	人数	45,961	45,486	45,599	44,946	44,265	42,556	41,103	41,927	41,297	41,087	40,139	40,098
	割合	100.0	99.0	99.2	97.8	96.3	92.6	89.4	91.2	89.9	89.4	87.3	87.2
東北	人数	85,215	84,393	83,343	80,153	78,112	75,333	72,188	73,534	72,443	71,180	69,170	68,649
	割合	100.0	99.0	97.8	94.1	91.7	88.4	84.7	86.3	85.0	83.5	81.2	80.6
北関東	人数	66,753	66,461	65,630	64,481	63,481	61,519	59,670	60,631	59,993	59,317	58,417	56,931
	割合	100.0	99.6	98.3	96.6	95.1	92.2	89.4	90.8	89.9	88.9	87.5	85.3
南関東	人数	305,851	306,595	303,638	300,812	297,703	292,454	285,268	294,226	296,534	295,171	293,761	293,449
	割合	100.0	100.2	99.3	98.4	97.3	95.6	93.3	96.2	97.0	96.5	96.0	95.9
甲信越	人数	51,080	49,910	49,125	47,712	46,840	45,522	44,397	45,156	44,392	43,728	42,258	42,372
	割合	100.0	97.7	96.2	93.4	91.7	89.1	86.9	88.4	86.9	85.6	82.7	83.0
北陸	人数	29,216	29,024	29,004	27,689	27,441	26,599	26,094	26,329	26,368	25,868	25,225	24,485
	割合	100.0	99.3	99.3	94.8	93.9	91.0	89.3	90.1	90.3	88.5	86.3	83.8
東海	人数	147,726	147,041	145,351	143,558	140,145	138,001	133,410	137,217	137,455	136,250	134,283	134,300
	割合	100.0	99.5	98.4	97.2	94.9	93.4	90.3	92.9	93.0	92.2	90.9	90.9
近畿	人数	199,747	197,547	194,388	189,902	185,202	181,047	175,941	179,712	179,475	178,299	174,460	174,192
	割合	100.0	98.9	97.3	95.1	92.7	90.6	88.1	90.0	89.9	89.3	87.3	87.2
中国	人数	70,160	70,045	69,789	67,785	66,692	65,189	63,582	65,049	65,432	64,387	64,140	64,317
	割合	100.0	99.8	99.5	96.6	95.1	92.9	90.6	92.7	93.3	91.8	91.4	91.7
四国	人数	36,296	36,321	34,844	34,541	33,830	32,923	31,700	32,383	32,067	31,963	31,316	31,153
	割合	100.0	100.1	96.0	95.2	93.2	90.7	87.3	89.2	88.3	88.1	86.3	85.8
九州沖縄	人数	141,803	141,978	141,030	136,673	134,110	132,590	130,134	134,053	136,481	136,408	134,712	136,289
	割合	100.0	100.1	99.5	96.4	94.6	93.5	91.8	94.5	96.2	96.2	95.0	96.1

18歳人口の減少率予測(全体：都道府県別:2017→2028年)

■東北の減少率が高く、6県中5県で減少率15%以上

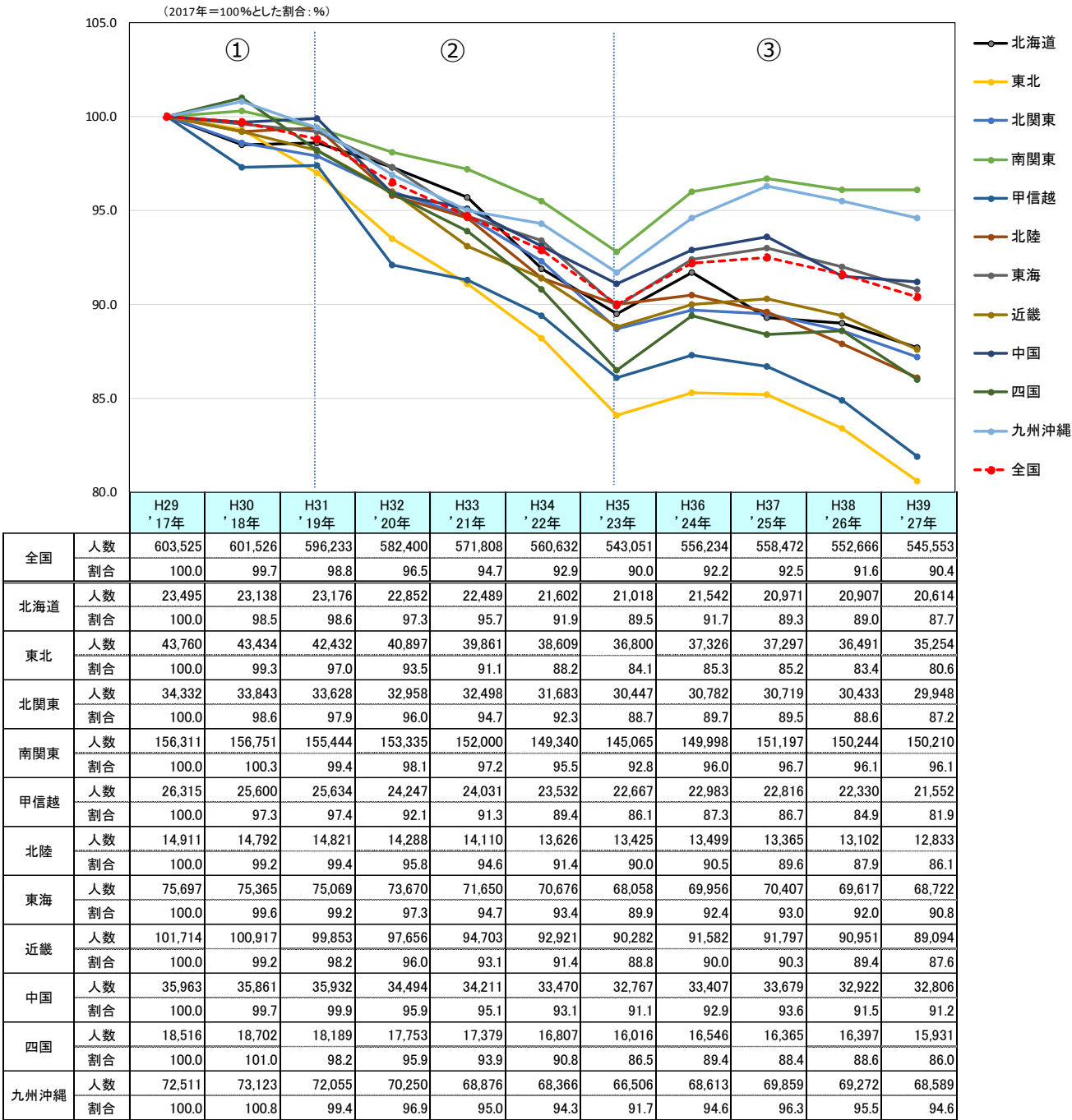
- ・減少率20%以上の県は、青森(24.3%)、秋田(25.1%)、福島(22.7%)、山梨(21.0%)、富山(20.2%)、和歌山(22.7%)。
- ・減少率15～20%未満の県は、岩手(19.5%)、山形(18.5%)、茨城(15.5%)、群馬(16.8%)、新潟(16.2%)、長野(16.4%)、奈良(19.4%)、高知(18.6%)、長崎(15.8%)。
- ・減少率10～15%未満の道府県は、北海道(12.8%)、宮城(11.8%)、栃木(11.3%)、石川(14.5%)、福井(13.4%)、岐阜(14.4%)、静岡(10.6%)、三重(12.4%)、京都(12.5%)、大阪(13.3%)、兵庫(10.6%)、鳥取(13.1%)、島根(10.8%)、岡山(10.0%)、山口(11.4%)、徳島(14.1%)、香川(12.0%)、愛媛(13.5%)、佐賀(13.4%)。
- ・減少率5～10%未満の県は、埼玉(6.2%)、千葉(6.4%)、愛知(6.1%)、滋賀(5.4%)、熊本(5.1%)、大分(6.6%)、宮崎(6.2%)。
- ・減少率5%未満の都県は、東京(1.9%)、神奈川(3.5%)、広島(4.0%)、福岡(-0.8%)、鹿児島(4.8%)、沖縄(-3.2%)。



18歳人口予測(男子：エリア別：2017～2027年)

■男子が最も減少するのは東北(率)、近畿(数)

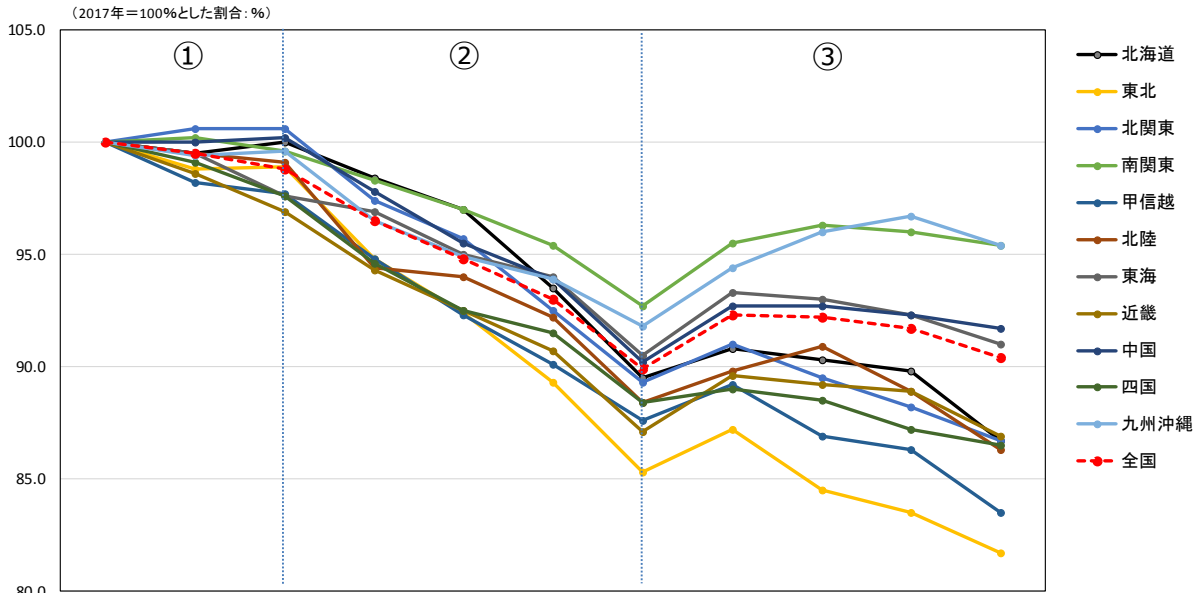
- ・減少率が高いのは、1位東北(2017年比80.6%)、2位甲信越(81.9%)、3位四国(86.0%)。
 - ・減少数が大きいのは、1位近畿(12620人減)、2位東北(8506人減)、3位東海(6975人減)。
 - ・減少率が低いのは、1位南関東(96.1%)、2位九州沖縄(94.6%)、3位中国(91.2%)。
 - ・③期において2023年より2027年の男子人口が増加するのは、北海道(404人減)、東北(1546人減)、北関東(499人減)、甲信越(1115人減)、北陸(592人減)、近畿(1188人減)、四国(85人減)。
- 他エリアは増加に転じる。



18歳人口予測(女子：エリア別：2017～2027年)

■女子が最も減少するのは東北(率)、近畿(数)

- ・減少率が高いのは、1位東北(2017年比81.7%)、2位甲信越(83.5%)、3位北陸(86.3%)。
 - ・減少数が大きいのは、1位近畿(12795人減)、2位東北(7594人減)、3位南関東(6881人減)。
 - ・減少率が低いのは、1位南関東・九州沖縄(95.4%)、3位中国(91.7%)。
 - ・③期において2023年より2027年の女子人口が減少するのは、北海道(618人減)、東北(1487人減)、北関東(830人減)、甲信越(1006人減)、北陸(299人減)、近畿(147人減)、四国(325人減)。
- 他エリアは増加に転じる。



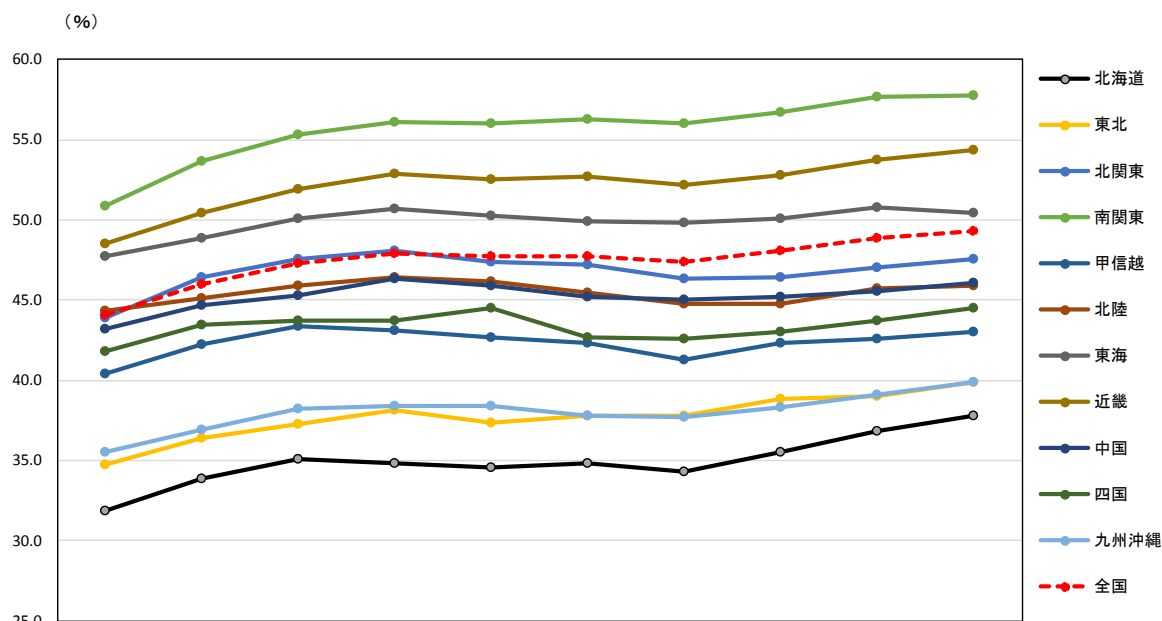
		H29 '17年	H30 '18年	H31 '19年	H32 '20年	H33 '21年	H34 '22年	H35 '23年	H36 '24年	H37 '25年	H38 '26年	H39 '27年
全国	人数	576,283	573,275	569,339	556,301	546,499	536,141	518,149	531,768	531,320	528,707	520,822
	割合	100.0	99.5	98.8	96.5	94.8	93.0	89.9	92.3	92.2	91.7	90.4
北海道	人数	22,466	22,348	22,471	22,109	21,787	21,012	20,097	20,410	20,290	20,182	19,479
	割合	100.0	99.5	100.0	98.4	97.0	93.5	89.5	90.8	90.3	89.8	86.7
東北	人数	41,455	40,959	40,991	39,290	38,313	37,012	35,348	36,140	35,014	34,616	33,861
	割合	100.0	98.8	98.9	94.8	92.4	89.3	85.3	87.2	84.5	83.5	81.7
北関東	人数	32,421	32,618	32,613	31,567	31,016	29,984	28,950	29,508	29,001	28,601	28,120
	割合	100.0	100.6	100.6	97.4	95.7	92.5	89.3	91.0	89.5	88.2	86.7
南関東	人数	149,540	149,844	148,926	147,008	145,118	142,621	138,684	142,783	144,072	143,613	142,659
	割合	100.0	100.2	99.6	98.3	97.0	95.4	92.7	95.5	96.3	96.0	95.4
甲信越	人数	24,765	24,310	24,192	23,475	22,846	22,305	21,695	22,096	21,533	21,364	20,689
	割合	100.0	98.2	97.7	94.8	92.3	90.1	87.6	89.2	86.9	86.3	83.5
北陸	人数	14,305	14,232	14,172	13,500	13,440	13,188	12,640	12,844	13,000	12,714	12,341
	割合	100.0	99.5	99.1	94.4	94.0	92.2	88.4	89.8	90.9	88.9	86.3
東海	人数	72,029	71,676	70,317	69,778	68,444	67,685	65,169	67,208	67,022	66,450	65,554
	割合	100.0	99.5	97.6	96.9	95.0	94.0	90.5	93.3	93.0	92.3	91.0
近畿	人数	98,033	96,630	95,026	92,423	90,681	88,921	85,385	87,852	87,416	87,111	85,238
	割合	100.0	98.6	96.9	94.3	92.5	90.7	87.1	89.6	89.2	88.9	86.9
中国	人数	34,197	34,184	34,258	33,431	32,653	32,103	30,855	31,695	31,714	31,559	31,357
	割合	100.0	100.0	100.2	97.8	95.5	93.9	90.2	92.7	92.7	92.3	91.7
四国	人数	17,780	17,619	17,351	16,825	16,440	16,271	15,711	15,830	15,730	15,504	15,386
	割合	100.0	99.1	97.6	94.6	92.5	91.5	88.4	89.0	88.5	87.2	86.5
九州沖縄	人数	69,292	68,855	69,022	66,895	65,761	65,039	63,615	65,402	66,528	66,993	66,138
	割合	100.0	99.4	99.6	96.5	94.9	93.9	91.8	94.4	96.0	96.7	95.4

大学進学率の推移(現役：エリア別：2007～2016年)

■ 2007年44.1%→2016年49.3%(5.2ポイント上昇)

- ・ 全国で2007年44.1%→2016年49.3%と、10年間で5.2ポイント上昇。
2007～2009年の3年間は上昇率が高く3.2ポイント上昇(44.1%→47.3%)。
2009～2013年の5年間は横ばいのトレンド(47.3%→47.4%)。
2013～2016年にかけて1.9ポイントの微増(47.4%→49.3%)。
- ・ 上昇率が高いのは、1位北海道(118.5)、2位東北(115.0)、3位南関東(113.6)。※
- ・ 上昇率が低いのは、1位北陸(103.6)、2位東海(105.7)、3位甲信越(106.4)。※
- ・ 進学率が高いのは、1位南関東(2016年57.8%)、2位近畿(54.4%)、3位東海(50.4%)。

注) ※の()内の数値は、2007年を100としたときの2016年の指数



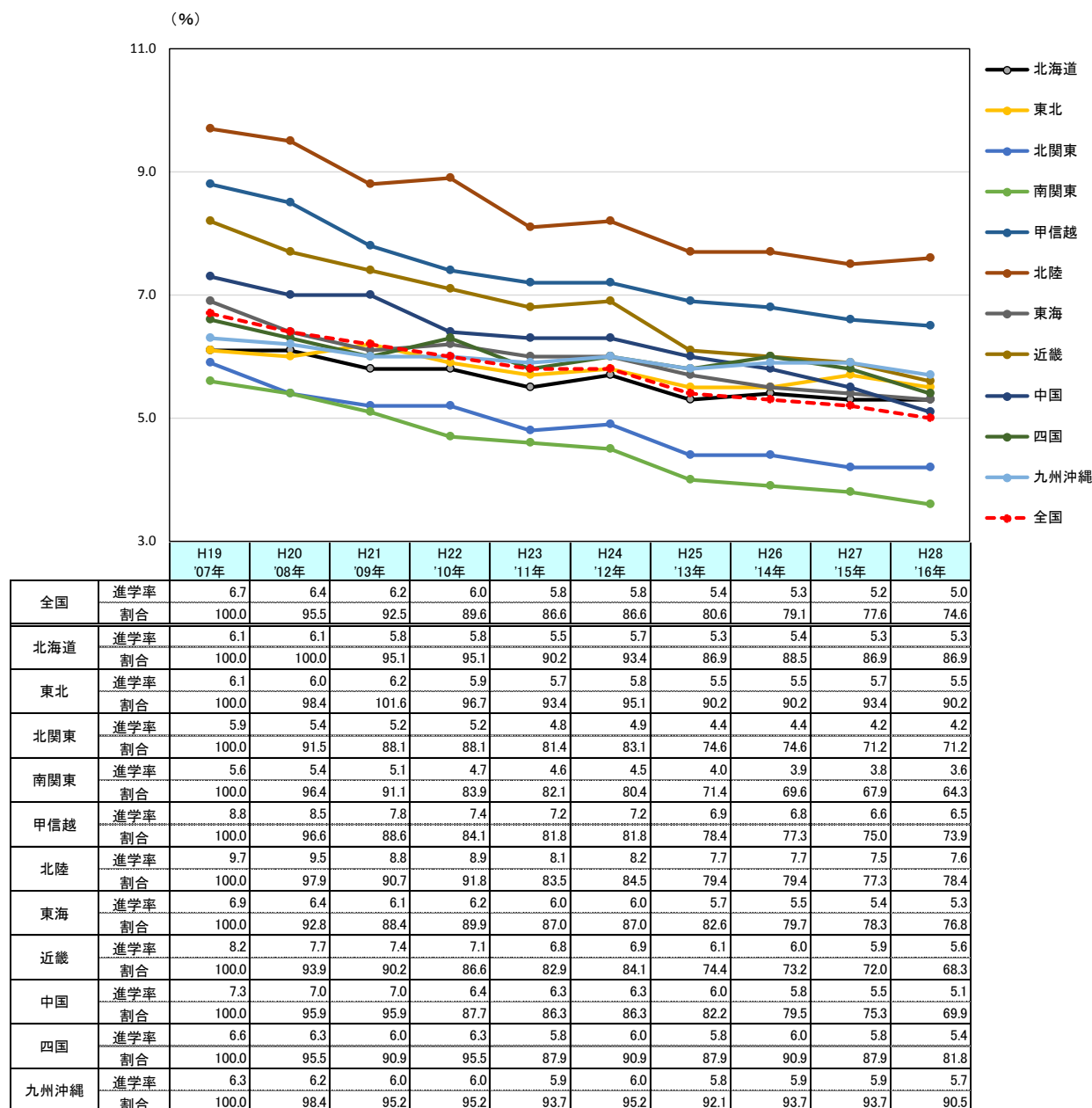
		H19 '07年	H20 '08年	H21 '09年	H22 '10年	H23 '11年	H24 '12年	H25 '13年	H26 '14年	H27 '15年	H28 '16年
全国	進学率	44.1	46.0	47.3	47.9	47.7	47.7	47.4	48.1	48.9	49.3
	割合	100.0	104.3	107.3	108.6	108.2	108.2	107.5	109.1	110.9	111.8
北海道	進学率	31.9	33.9	35.1	34.8	34.6	34.8	34.3	35.5	36.8	37.8
	割合	100.0	106.3	110.0	109.1	108.5	109.1	107.5	111.3	115.4	118.5
東北	進学率	34.7	36.4	37.3	38.1	37.4	37.8	37.8	38.8	39.0	39.9
	割合	100.0	104.9	107.5	109.8	107.8	108.9	108.9	111.8	112.4	115.0
北関東	進学率	43.9	46.4	47.6	48.1	47.4	47.2	46.3	46.4	47.0	47.6
	割合	100.0	105.7	108.4	109.6	108.0	107.5	105.5	105.7	107.1	108.4
南関東	進学率	50.9	53.7	55.3	56.1	56.0	56.3	56.0	56.7	57.7	57.8
	割合	100.0	105.5	108.6	110.2	110.0	110.6	110.0	111.4	113.4	113.6
甲信越	進学率	40.4	42.2	43.4	43.1	42.7	42.3	41.3	42.3	42.6	43.0
	割合	100.0	104.5	107.4	106.7	105.7	104.7	102.2	104.7	105.4	106.4
北陸	進学率	44.3	45.1	45.9	46.4	46.2	45.5	44.8	44.8	45.7	45.9
	割合	100.0	101.8	103.6	104.7	104.3	102.7	101.1	101.1	103.2	103.6
東海	進学率	47.7	48.9	50.1	50.7	50.3	49.9	49.8	50.1	50.8	50.4
	割合	100.0	102.5	105.0	106.3	105.5	104.6	104.4	105.0	106.5	105.7
近畿	進学率	48.5	50.4	51.9	52.9	52.5	52.7	52.2	52.8	53.8	54.4
	割合	100.0	103.9	107.0	109.1	108.2	108.7	107.6	108.9	110.9	112.2
中国	進学率	43.2	44.7	45.3	46.3	45.9	45.2	45.0	45.2	45.6	46.1
	割合	100.0	103.5	104.9	107.2	106.3	104.6	104.2	104.6	105.6	106.7
四国	進学率	41.8	43.5	43.7	43.7	44.5	42.7	42.6	43.0	43.7	44.5
	割合	100.0	104.1	104.5	104.5	106.5	102.2	101.9	102.9	104.5	106.5
九州沖縄	進学率	35.5	36.9	38.2	38.4	38.4	37.8	37.7	38.3	39.1	39.9
	割合	100.0	103.9	107.6	108.2	108.2	106.5	106.2	107.9	110.1	112.4

短期大学進学率の推移(現役：エリア別：2007～2016年)

■ 2007年6.7%→2016年5.0%(1.7ポイント低下)

- ・ 全国で見ると2007年6.7%→2016年5.0%と、10年間で1.7ポイント低下。
- ・ 低下率が高いのは、1位南関東(64.3)、2位近畿(68.3)、3位中国(69.9)。※
- ・ 低下率が低いのは、1位九州沖縄(90.5)、2位東北(90.2)、3位北海道(86.9)。※
- ・ 進学率が高いのは、1位北陸(2016年7.6%)、2位甲信越(6.5%)、3位九州沖縄(5.7%)。

注) ※の()内の数値は、2007年を100としたときの2016年の指数

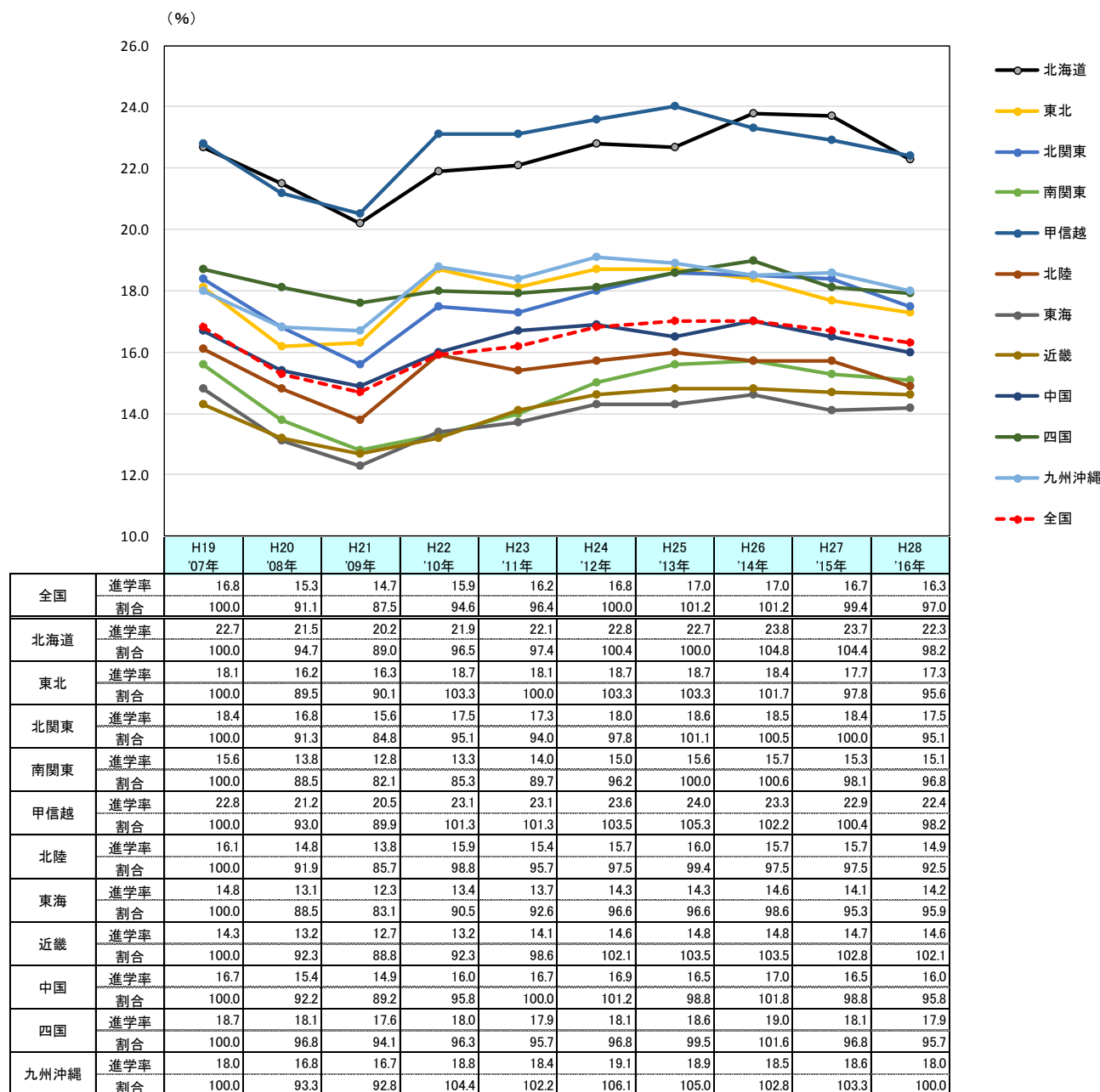


専門学校進学率の推移(現役：エリア別：2007～2016年)

■ 2007年16.8%→2016年16.3%(0.5ポイント低下)

- ・ 全国で見ると2007年16.8%→2016年16.3%と、10年間で0.5ポイント低下。
ただし最も低下したのは2009年14.7%で、そこから回復している。
- ・ 低下率が高いのは、1位北陸(92.5)、2位北関東(95.1)、3位東北(95.6)。※
- ・ 低下率が低いのは、1位近畿(102.1)、2位九州沖縄(100.0)、3位甲信越(98.2)。※
- ・ 進学率が高いのは、1位甲信越(2016年22.4%)、2位北海道(22.3%)、3位九州沖縄(18.0%)。

注) ※の()内の数値は、2007年を100としたときの2016年の指数



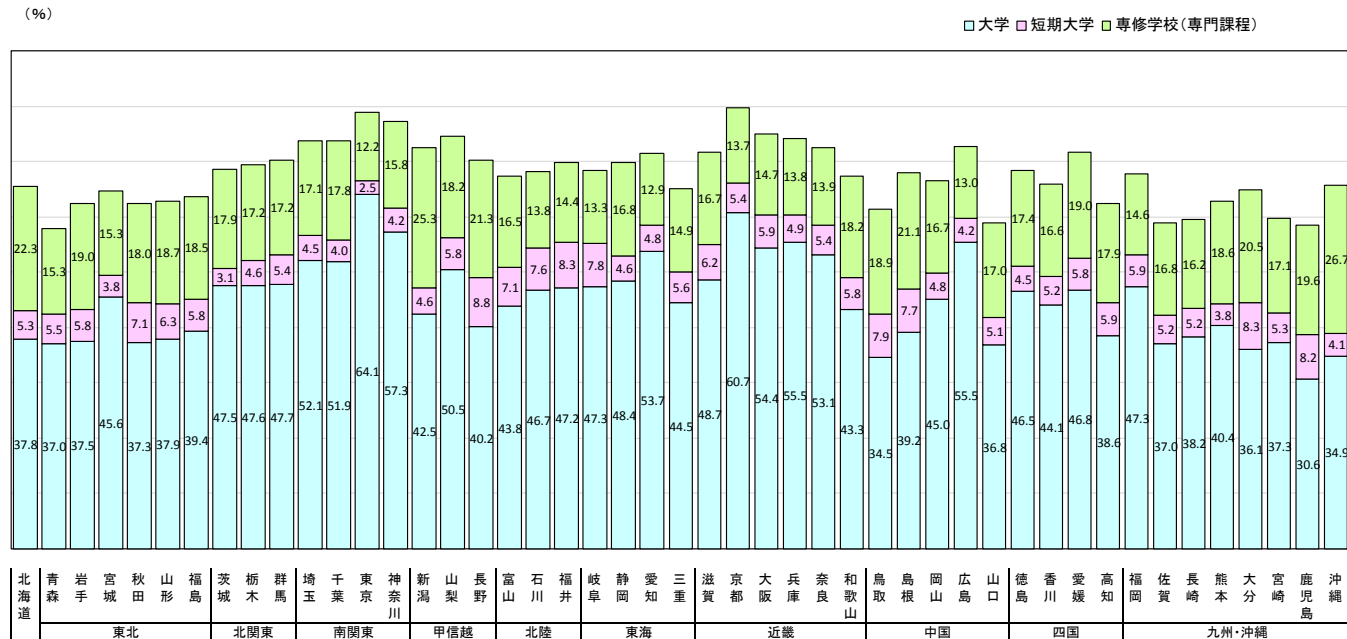
大学・短期大学・専門学校進学率(現役：都道府県別：2016年)

■大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は長野、専門学校進学率1位は沖縄

大学進学率 1位：東京(64.1%) 2位：京都(60.7%) 3位：神奈川(57.3%)

短期大学進学率 1位：長野(8.8%) 2位：福井・大分(8.3%)

専門学校進学率 1位：沖縄(26.7%) 2位：新潟(25.3%) 3位：北海道(22.3%)



(参考) 大学・短期大学・専門学校進学率ランキング (%)

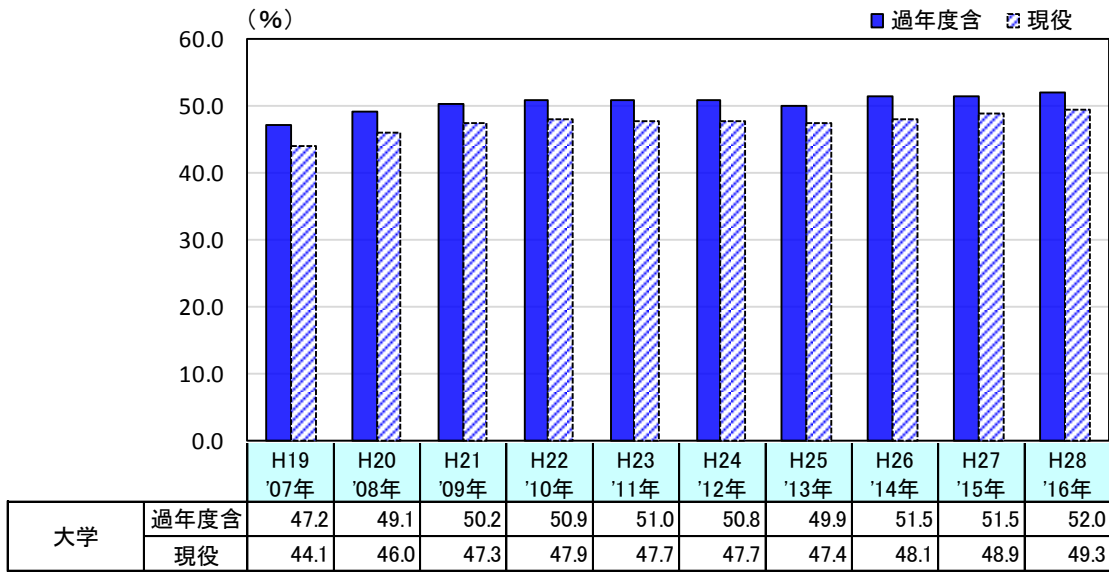
大学進学率				短期大学			専門学校			
1	東京	京都	64.1	1	長野	8.8	1	沖縄	縄	26.7
2	東京	京都	60.7	2	福岡	8.3	2	新北	潟	25.3
3	神奈	川	57.3	2	大分	8.3	3	北海	道	22.3
4	兵庫	島	55.5	4	鹿児	8.2	4	長野	野	21.3
4	広島	島	55.5	5	鳥取	7.9	5	島根	根	21.1
6	大阪	府	54.4	6	岐阜	7.8	6	大分	分	20.5
7	愛知	知	53.7	7	島根	7.7	7	鹿児	島	19.6
8	奈良	良	53.1	8	石川	7.6	8	岩手	手	19.0
9	埼玉	玉	52.1	9	秋田	7.1	8	愛媛	媛	19.0
10	千葉	葉	51.9	9	富山	7.1	10	鳥取	取	18.9
11	山梨	梨	50.5	11	山形	6.3	11	山形	形	18.7
12	滋賀	賀	48.7	12	滋賀	6.2	12	熊本	本	18.6
13	静岡	岡	48.4	13	大阪	5.9	13	福岡	島	18.5
14	群馬	馬	47.7	13	高知	5.9	14	山梨	梨	18.2
15	栃木	木	47.6	13	福岡	5.9	14	和歌	山	18.2
16	茨城	城	47.5	16	岩手	5.8	16	秋田	田	18.0
17	岐阜	阜	47.3	16	福山	5.8	17	茨城	城	17.9
17	福岡	岡	47.3	16	山梨	5.8	17	高知	知	17.9
19	福岡	井	47.2	16	和歌	5.8	19	千葉	葉	17.8
20	愛媛	媛	46.8	16	愛媛	5.8	20	徳島	島	17.4

大学・短期大学・専門学校進学率(現役・過年度比較：全国：2007～2016年)

■現役と過年度の進学率の差は、大学は2.7ポイント(過年度が高い)、短期大学はほとんど差なし。

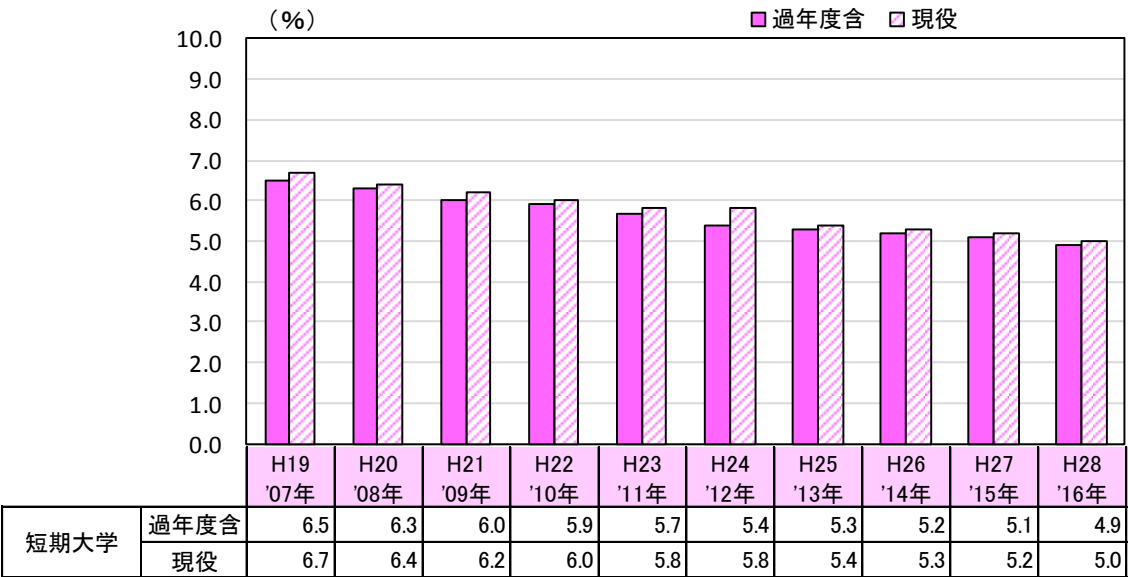
大学進学者

- ・現役の進学率は2007年44.1%→2016年49.3%(5.2ポイント上昇)。
- ・過年度の進学率は2007年47.2%→2016年52.0%(4.8ポイント上昇)。
- ・過年度と現役の進学率の差は2007年3.1ポイント→2016年2.7ポイント。
- ・最も差が縮まるのは2013年の2.5ポイント。



短期大学進学者

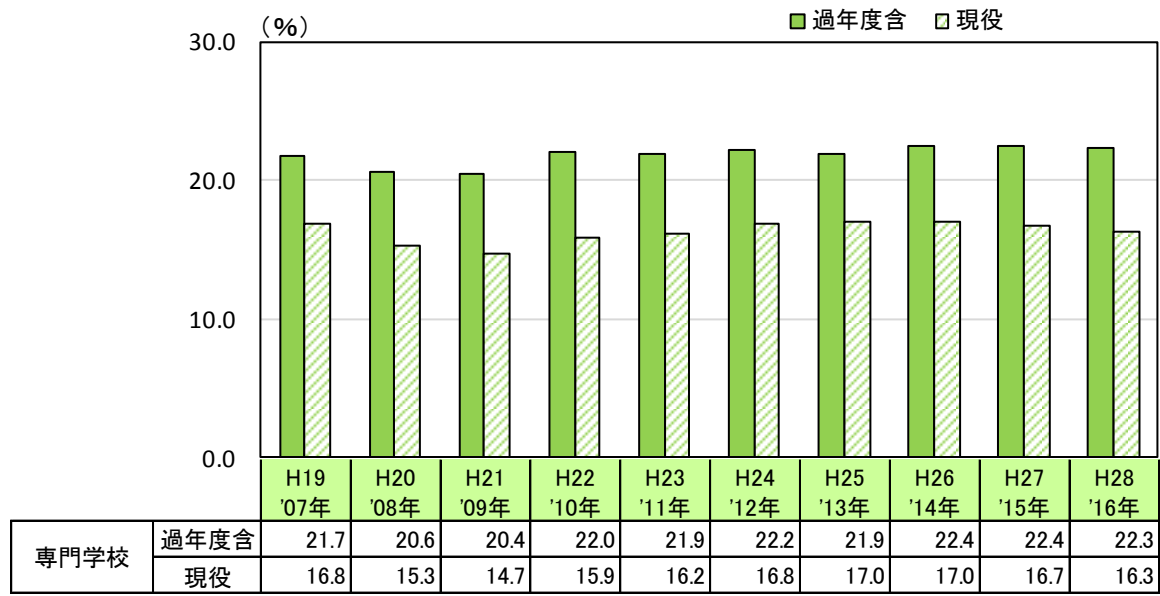
- ・現役の進学率は2007年6.7%→2016年5.0%(1.7ポイント低下)。
- ・過年度の進学率は2007年6.5%→2016年4.9%(1.6ポイント低下)。
- ・過年度と現役の進学率の差は2007年0.2ポイント→2016年0.1ポイントと差が小さい。



■ 現役と過年度の進学率の差は、6.0ポイント(過年度が高い)

専門学校進学者

- ・ 現役の進学率は2007年16.8%→2017年16.3%(0.5ポイント低下)。
- ・ 過年度の進学率は2007年21.7%→2017年22.3%(0.6ポイント上昇)。
- ・ 過年度と現役の進学率の差は2007年4.9ポイント→2016年6.0ポイントと拡大。

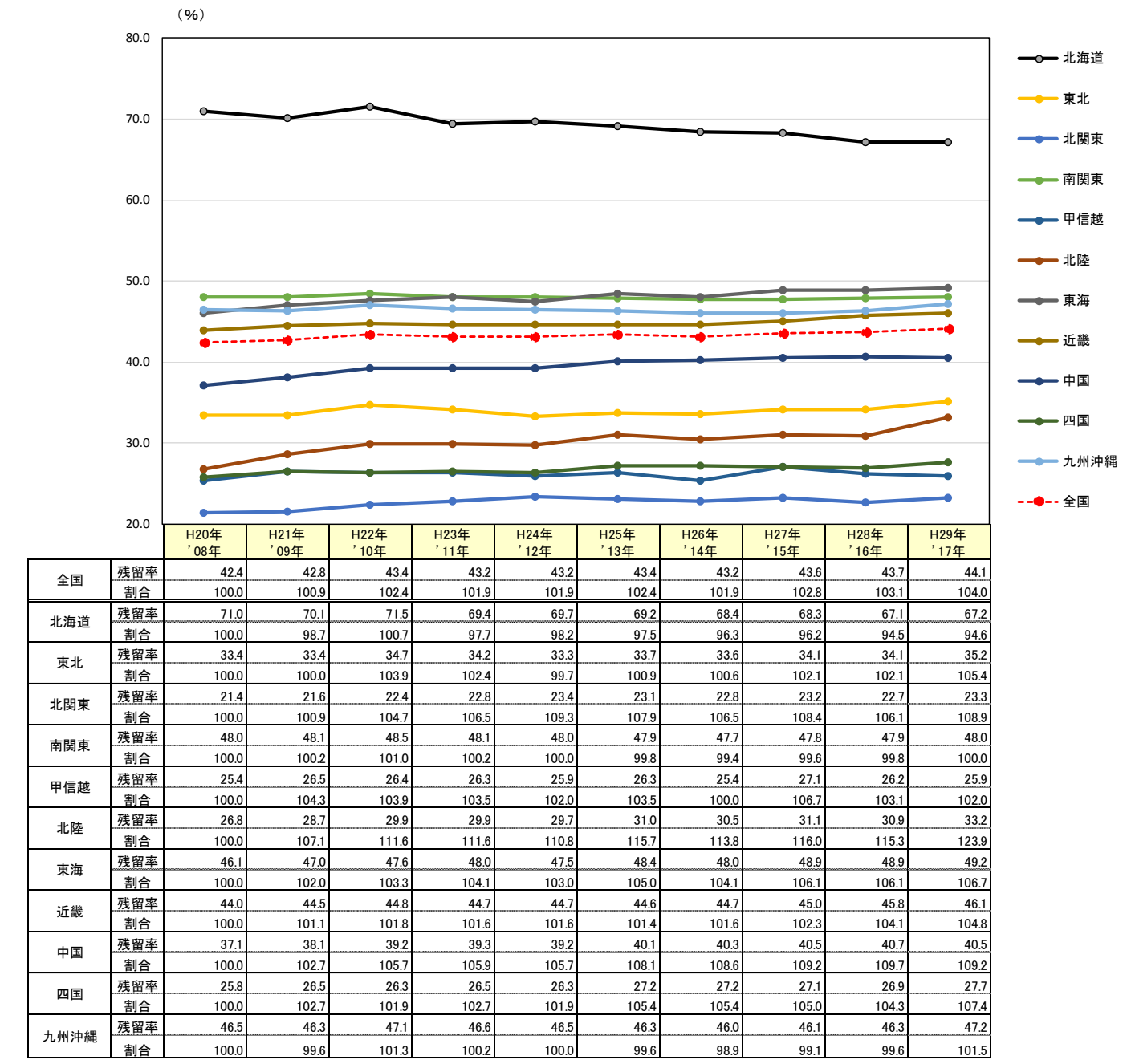


地元残留率の推移(全体：大学進学者：エリア別：2008～2017年)

■ 2008年42.4%→2017年44.1%(1.7ポイント上昇)

- ・ 全国で2008年42.4%→2017年44.1%と1.7ポイント上昇。
- ・ 上昇率が高いのは、1位北陸(123.9)、2位中国(109.2)、3位北関東(108.9)。※
- ・ 残留率が高いのは、1位北海道(2017年67.2%)、2位東海(49.2%)、3位南関東(48.0%)。
- ・ 北海道は2008年で71.0%という高い残留率だったが、2017年で67.2%と3.8ポイント低下。ただし数値としては抜きんでて高く、2位の東海(49.2%)に20ポイント近い差をつけており、全体平均を引き上げている。

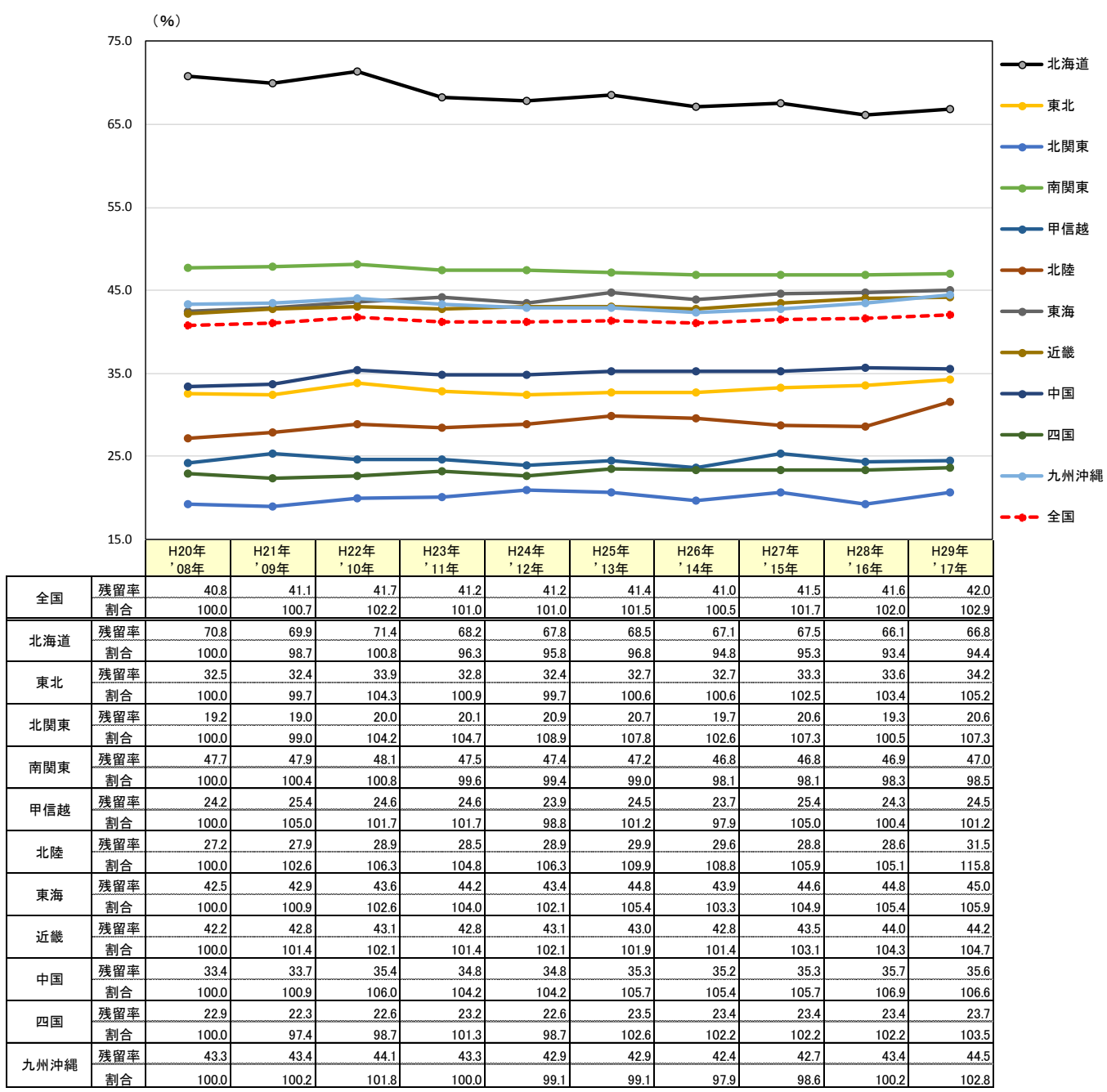
注) ※の()内の数値は、2008年を100としたときの2017年の指数



地元残留率の推移(男子：大学進学者：エリア別：2008～2017年)

■ 2008年40.8%→2017年42.0%(1.2ポイント上昇)

- ・ 全国で2008年40.8%→2017年42.0%と1.2ポイント上昇。
 - ・ 上昇率が高いのは、1位北陸(115.8)、2位北関東(107.3)、3位中国(106.6)。※
 - ・ 上昇率が低いのは、1位北海道(94.4)、2位南関東(98.5)、3位甲信越(101.2)。※
 - ・ 残留率が高いのは、1位北海道(2017年66.8%)、2位南関東(47.0%)、3位東海(45.0%)。
- 注) ※の()内の数値は、2008年を100としたときの2017年の指数



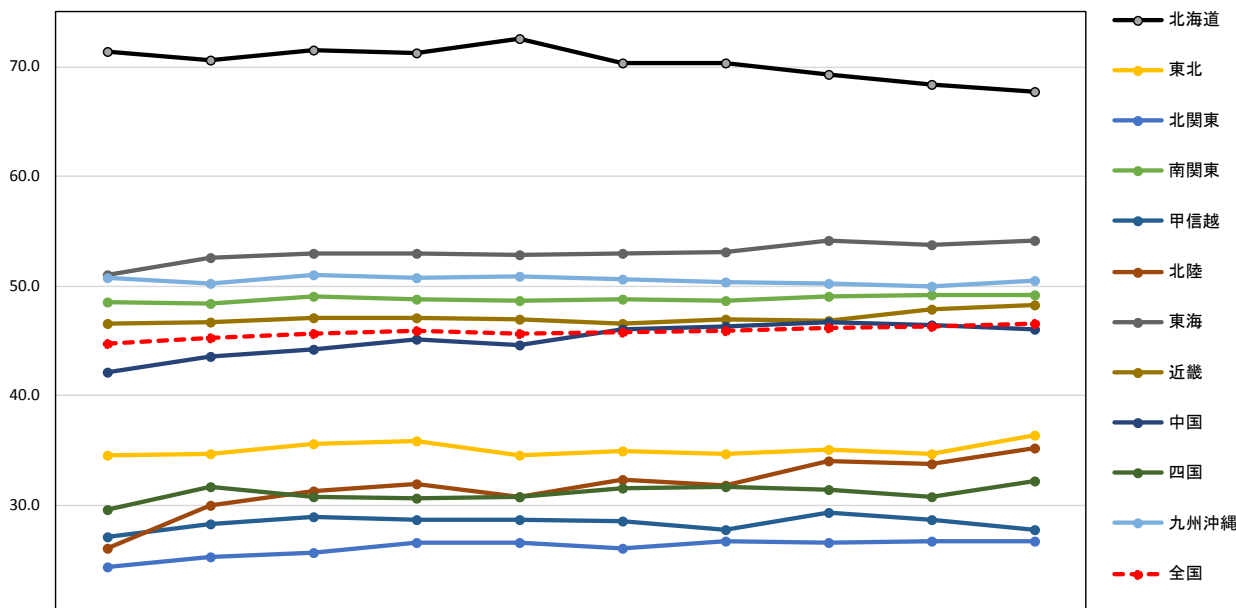
地元残留率の推移(女子：大学進学者：エリア別：2008～2017年)

■ 2008年44.7%→2017年46.6%(1.9ポイント上昇)

- ・ 全国で2008年44.7%→2017年46.6%と1.9ポイント上昇。
- ・ 上昇率が高いのは、1位北陸(134.9)、2位北関東(109.9)、3位中国(109.3)。※
- ・ 10年間で低下したのは北海道(71.4%→67.7%)、九州沖縄(50.8%→50.5%)。
- ・ 残留率が高いのは、1位北海道(2017年67.7%)、2位東海(54.1%)、3位九州沖縄(50.5%)。

注) ※の()内の数値は、2008年を100としたときの2017年の指数

(%)

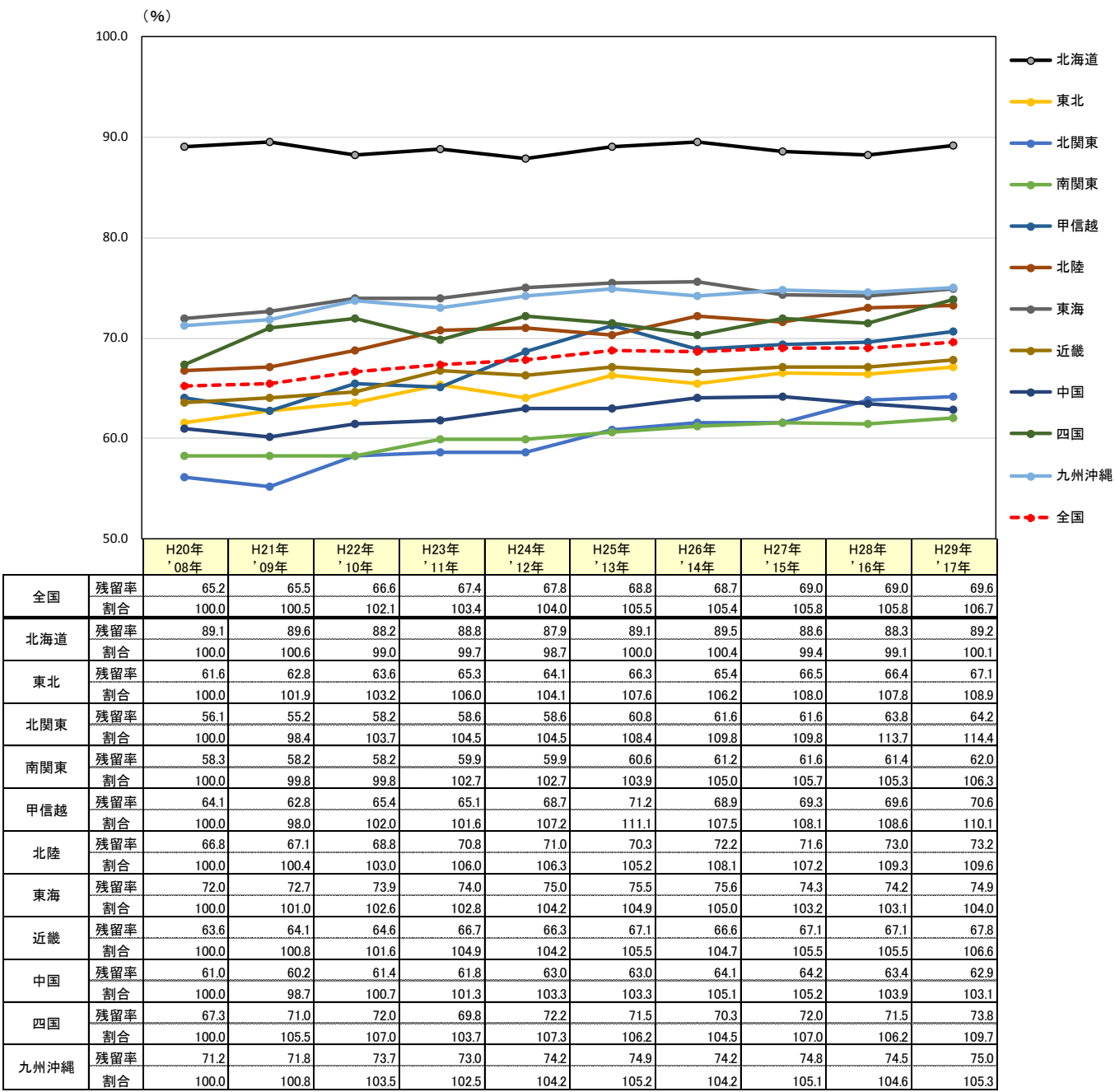


		H20年 '08年	H21年 '09年	H22年 '10年	H23年 '11年	H24年 '12年	H25年 '13年	H26年 '14年	H27年 '15年	H28年 '16年	H29年 '17年
全国	残留率	44.7	45.2	45.7	45.9	45.7	45.8	45.9	46.2	46.3	46.6
	割合	100.0	101.1	102.2	102.7	102.2	102.5	102.7	103.4	103.6	104.3
北海道	残留率	71.4	70.6	71.5	71.2	72.5	70.3	70.3	69.3	68.4	67.7
	割合	100.0	98.9	100.1	99.7	101.5	98.5	98.5	97.1	95.8	94.8
東北	残留率	34.5	34.6	35.6	35.9	34.5	34.9	34.6	35.1	34.7	36.4
	割合	100.0	100.3	103.2	104.1	100.0	101.2	100.3	101.7	100.6	105.5
北関東	残留率	24.3	25.2	25.6	26.5	26.6	26.1	26.7	26.5	26.7	26.7
	割合	100.0	103.7	105.3	109.1	109.5	107.4	109.9	109.1	109.9	109.9
南関東	残留率	48.5	48.4	49.0	48.8	48.7	48.8	48.7	49.0	49.2	49.2
	割合	100.0	99.8	101.0	100.6	100.4	100.6	100.4	101.0	101.4	101.4
甲信越	残留率	27.1	28.2	28.9	28.6	28.6	28.5	27.7	29.3	28.7	27.8
	割合	100.0	104.1	106.6	105.5	105.5	105.2	102.2	108.1	105.9	102.6
北陸	残留率	26.1	29.9	31.3	31.9	30.7	32.3	31.8	34.0	33.7	35.2
	割合	100.0	114.6	119.9	122.2	117.6	123.8	121.8	130.3	129.1	134.9
東海	残留率	51.0	52.6	53.0	53.0	52.8	53.0	53.1	54.1	53.7	54.1
	割合	100.0	103.1	103.9	103.9	103.5	103.9	104.1	106.1	105.3	106.1
近畿	残留率	46.5	46.7	47.1	47.1	46.9	46.6	47.0	46.8	47.9	48.3
	割合	100.0	100.4	101.3	101.3	100.9	100.2	101.1	100.6	103.0	103.9
中国	残留率	42.1	43.6	44.2	45.1	44.6	46.0	46.3	46.7	46.4	46.0
	割合	100.0	103.6	105.0	107.1	105.9	109.3	110.0	110.9	110.2	109.3
四国	残留率	29.5	31.6	30.8	30.6	30.7	31.5	31.7	31.4	30.8	32.2
	割合	100.0	107.1	104.4	103.7	104.1	106.8	107.5	106.4	104.4	109.2
九州沖縄	残留率	50.8	50.2	51.0	50.8	50.9	50.6	50.4	50.2	50.0	50.5
	割合	100.0	98.8	100.4	100.0	100.2	99.6	99.2	98.8	98.4	99.4

地元残留率の推移(全体：短期大学進学者：エリア別：2008～2017年)

■ 2008年65.2%→2017年69.6%(4.4ポイント上昇)

- ・ 全国で2008年65.2%→2017年69.6%と4.4ポイント上昇。
 - ・ 上昇率が高いのは、1位北関東(114.4)、2位甲信越(110.1)、3位四国(109.7) 。※
 - ・ 10年間で低下した地域は、無し。
 - ・ 残留率が高いのは、1位北海道(2017年89.2%)、2位九州沖縄(75.0%)、3位東海(74.9%)。
- 注) ※の()内の数値は、2008年を100としたときの2017年の指数

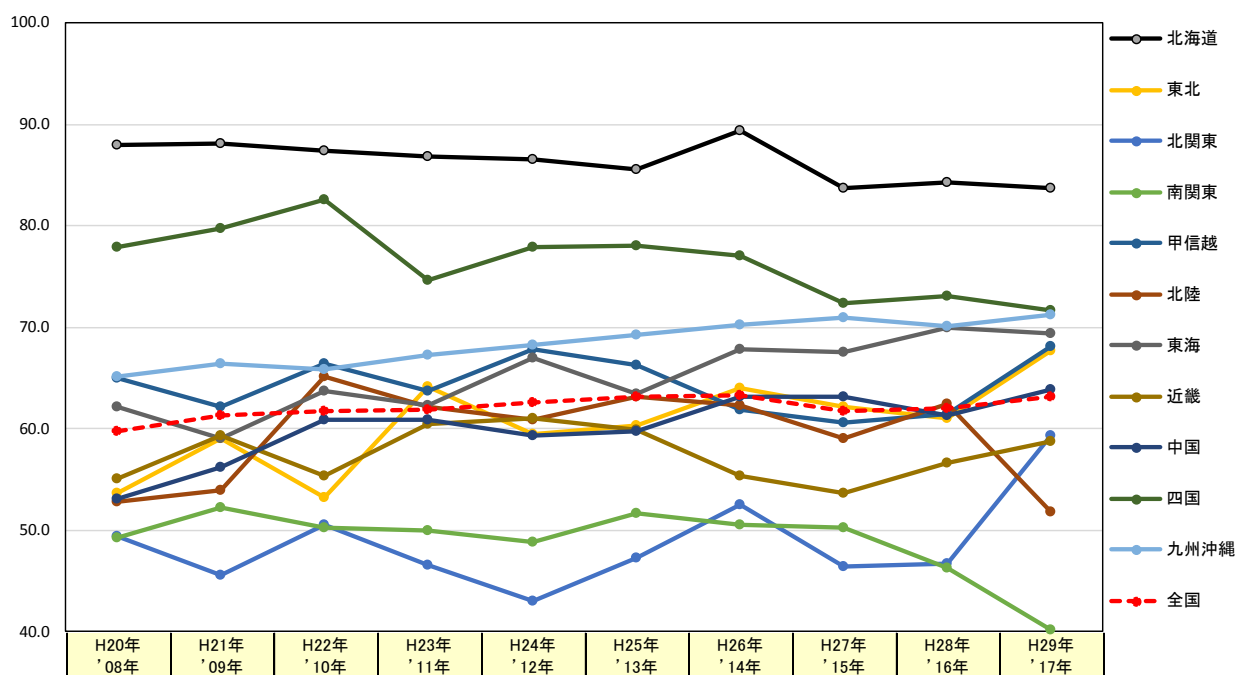


地元残留率の推移(男子：短期大学進学者：エリア別：2008～2017年)

■ 2008年59.7%→2017年63.2%(3.5ポイント上昇)

- ・ 全国で2008年59.7%→2017年63.2%と3.5ポイント上昇。
 - ・ 上昇率が高いのは、1位東北(126.1)、2位中国(120.3)、3位北関東(120.0)。※
 - ・ 上昇率が低いのは、1位南関東(81.5)、2位四国(91.9)、3位北海道(95.2)。※
 - ・ 残留率が高いのは、1位北海道(2017年83.7%)、2位四国(71.6%)、3位九州沖縄(71.3%)。
- 注) ※の()内の数値は、2008年を100としたときの2017年の指数

(%)



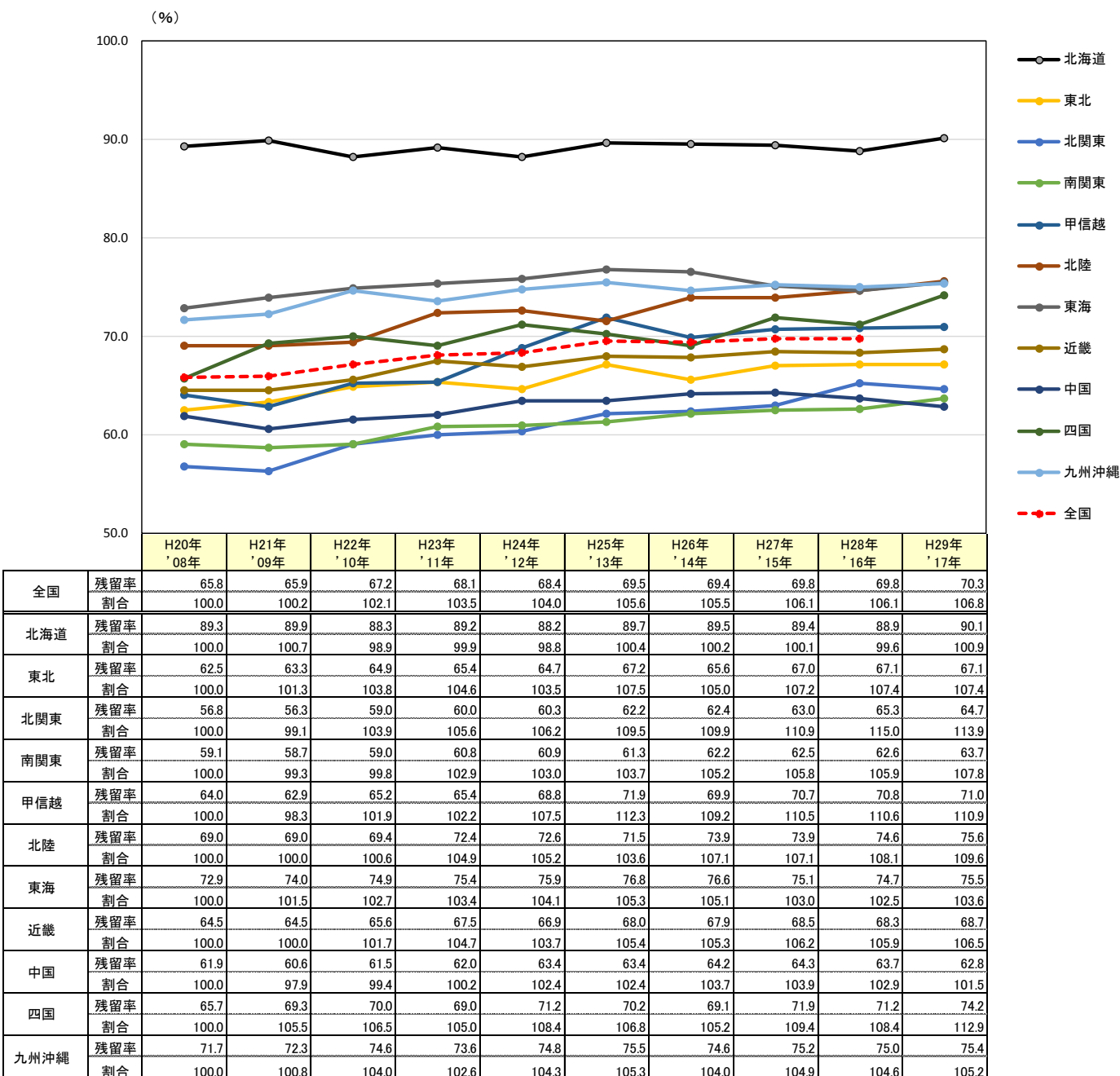
		H20年 '08年	H21年 '09年	H22年 '10年	H23年 '11年	H24年 '12年	H25年 '13年	H26年 '14年	H27年 '15年	H28年 '16年	H29年 '17年
全国	残留率	59.7	61.3	61.7	61.9	62.6	63.2	63.3	61.7	62.0	63.2
	割合	100.0	102.7	103.4	103.7	104.9	105.9	106.0	103.4	103.9	105.9
北海道	残留率	87.9	88.1	87.4	86.8	86.5	85.5	89.3	83.7	84.3	83.7
	割合	100.0	100.2	99.4	98.7	98.4	97.3	101.6	95.2	95.9	95.2
東北	残留率	53.7	59.1	53.2	64.2	59.5	60.3	64.0	62.2	61.0	67.7
	割合	100.0	110.1	99.1	119.6	110.8	112.3	119.2	115.8	113.6	126.1
北関東	残留率	49.4	45.6	50.6	46.6	43.0	47.3	52.6	46.5	46.7	59.3
	割合	100.0	92.3	102.4	94.3	87.0	95.7	106.5	94.1	94.5	120.0
南関東	残留率	49.3	52.2	50.3	50.0	48.9	51.7	50.6	50.2	46.3	40.2
	割合	100.0	105.9	102.0	101.4	99.2	104.9	102.6	101.8	93.9	81.5
甲信越	残留率	65.0	62.1	66.4	63.7	67.8	66.3	61.9	60.6	61.4	68.1
	割合	100.0	95.5	102.2	98.0	104.3	102.0	95.2	93.2	94.5	104.8
北陸	残留率	52.8	54.0	65.2	62.2	60.9	63.1	62.3	59.1	62.5	51.8
	割合	100.0	102.3	123.5	117.8	115.3	119.5	118.0	111.9	118.4	98.1
東海	残留率	62.2	59.1	63.7	62.3	67.0	63.5	67.8	67.5	69.9	69.4
	割合	100.0	95.0	102.4	100.2	107.7	102.1	109.0	108.5	112.4	111.6
近畿	残留率	55.1	59.3	55.4	60.5	61.1	59.9	55.4	53.7	56.7	58.8
	割合	100.0	107.6	100.5	109.8	110.9	108.7	100.5	97.5	102.9	106.7
中国	残留率	53.1	56.2	60.9	60.9	59.4	59.8	63.2	63.2	61.3	63.9
	割合	100.0	105.8	114.7	114.7	111.9	112.6	119.0	119.0	115.4	120.3
四国	残留率	77.9	79.8	82.5	74.6	77.9	78.0	77.1	72.3	73.1	71.6
	割合	100.0	102.4	105.9	95.8	100.0	100.1	99.0	92.8	93.8	91.9
九州沖縄	残留率	65.1	66.4	65.8	67.2	68.2	69.3	70.2	70.9	70.1	71.3
	割合	100.0	102.0	101.1	103.2	104.8	106.5	107.8	108.9	107.7	109.5

地元残留率の推移(女子：短期大学進学者：エリア別：2008～2017年)

■ 2008年65.8%→2017年70.3%(4.5ポイント上昇)

- ・ 全国で2008年65.8%→2017年70.3%と4.5ポイント上昇。
- ・ 上昇率が高いのは、1位北関東(113.9)、2位四国(112.9)、3位甲信越(110.9)。※
- ・ 10年間で低下した地域は、無し。
- ・ 残留率が高いのは、1位北海道(2017年90.1%)、2位北陸(75.6%)、3位東海(75.5%)。

注) ※の()内の数値は、2008年を100としたときの2017年の指数



地元残留率(全体：大学・短期大学進学者：都道府県別：2017年)

■ 大学進学者の地元残留率1位は愛知、短期大学進学者の地元残留率1位は福岡

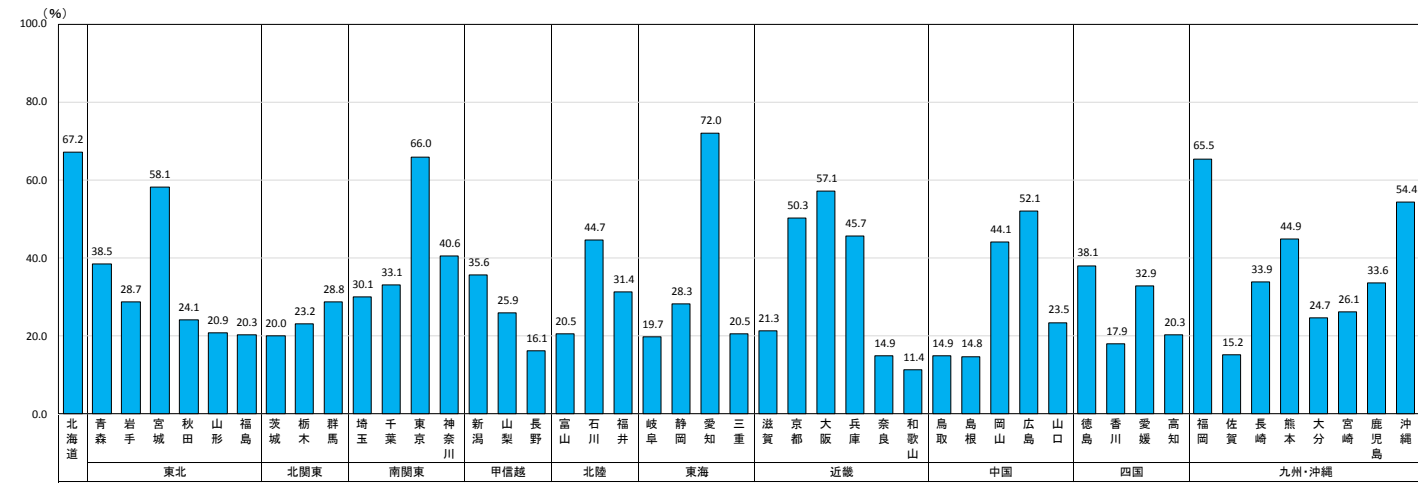
大学進学者地元残留率

残留率が高いのは、1位愛知(72.0%)、2位北海道(67.2%)、3位東京(66.0%)
残留率が低いのは、1位和歌山(11.4%)、2位島根(14.8%)、3位奈良・鳥取(14.9%)

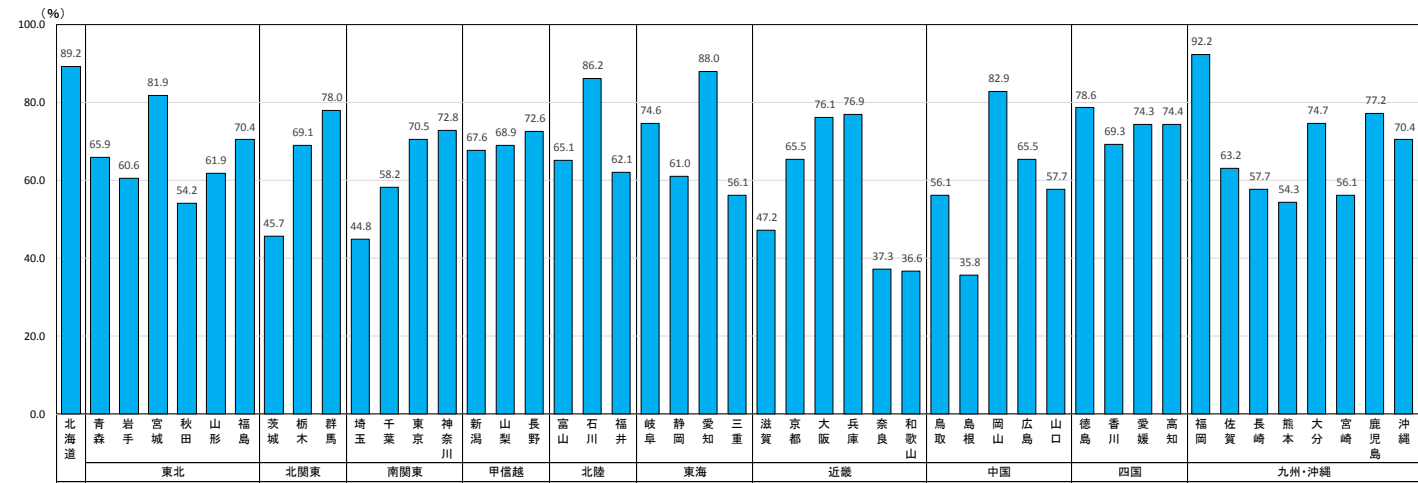
短期大学進学者地元残留率

残留率が高いのは、1位福岡(92.2%)、2位北海道(89.2%)、3位愛知(88.0%)
残留率が低いのは、1位島根(35.8%)、2位和歌山(36.6%)、3位奈良(37.3%)

・ 大学進学者地元残留率



・ 短期大学進学者地元残留率



地元残留率(男子：大学・短期大学進学者数：都道府県別：2017年)

■ 大学進学者の地元残留率1位は北海道・愛知、短期大学進学者の残留率1位は福岡

大学進学者地元残留率

残留率が高いのは、1位北海道・愛知(66.8%)、3位東京(63.7%)

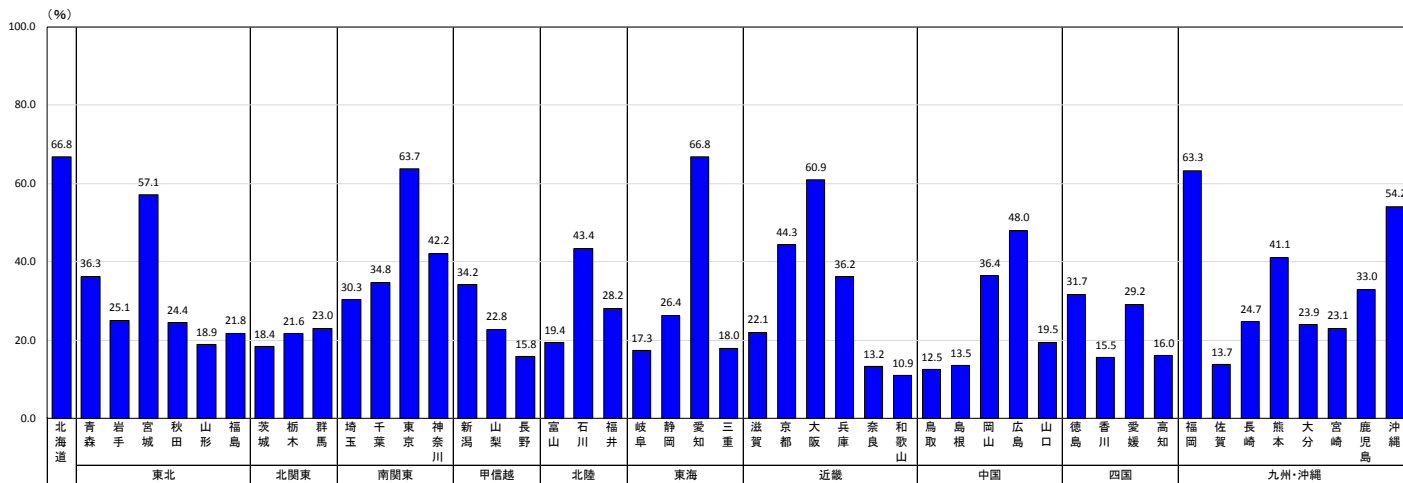
残留率が低いのは、1位和歌山(10.9%)、2位鳥取(12.5%)、3位奈良(13.2%)

短期大学進学者地元残留率

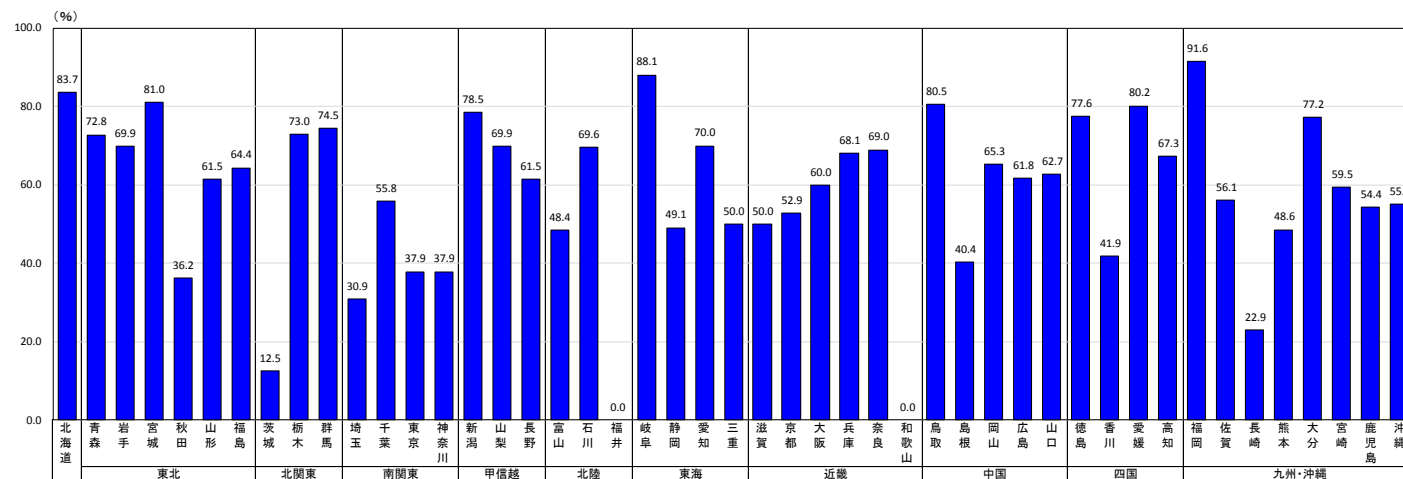
残留率が高いのは、1位福岡(91.6%)、2位岐阜(88.1%)、3位北海道(83.7%)

残留率が低いのは、1位福井・和歌山(0.0%)、3位茨城(12.5%)

・ 大学進学者地元残留率



・ 短期大学進学者地元残留率



地元残留率(女子：大学・短期大学進学者：都道府県別：2017年)

■ 大学進学者の地元残留率1位は愛知、短期大学進学者の地元残留率1位は福岡

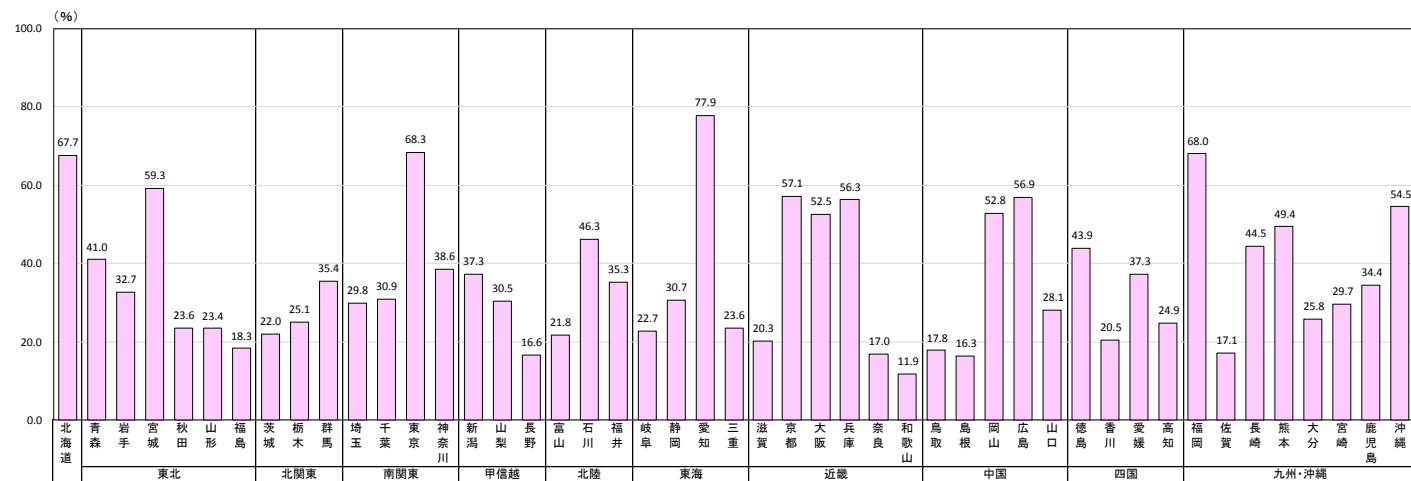
大学進学者地元残留率

残留率が高いのは、1位愛知(77.9%)、2位東京(68.3%)、3位福岡(68.0%)
 残留率が低いのは、1位和歌山(11.9%)、2位島根(16.3%)、3位長野(16.6%)

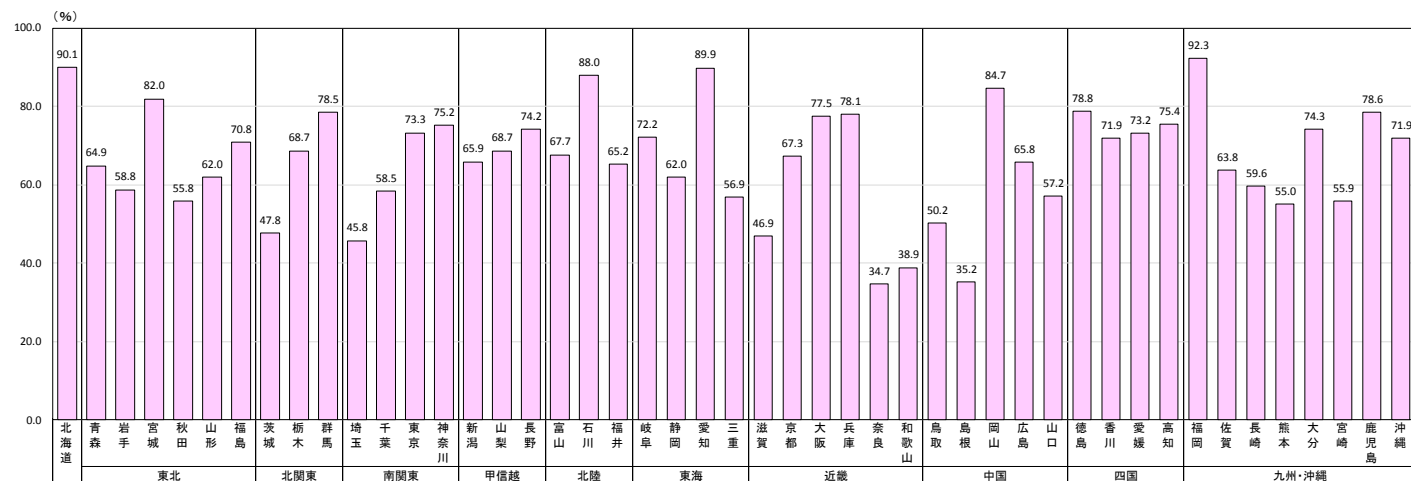
短期大学進学者地元残留率

残留率が高いのは、1位福岡(92.3%)、2位北海道(90.1%)、3位愛知(89.9%)
 残留率が低いのは、1位奈良(34.7%)、2位島根(35.2%)、3位和歌山(38.9%)

・ 大学進学者地元残留率

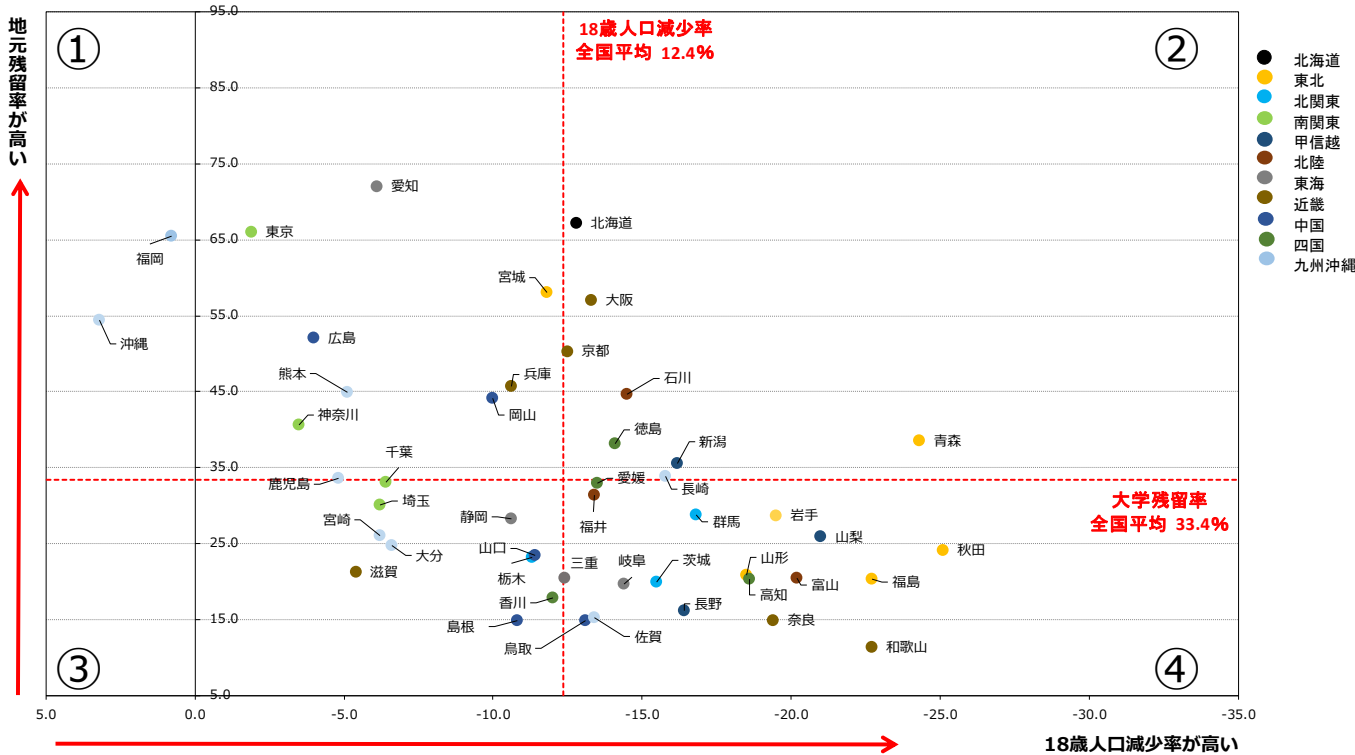


・ 短期大学進学者地元残留率



■「象限④」（18歳人口減少率が高く地元残留率が低い）に多くの県が集まる

- ・全国平均でガイドラインを引き4象限に分けると、以下のとおりになる。
- 象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い
：宮城、東京、愛知、兵庫、岡山、広島、福岡、熊本、沖縄
→人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。
- 象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い
：北海道、石川、京都、大阪
→18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。
- 象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い
：栃木、埼玉、千葉、神奈川、静岡、滋賀、島根、山口、香川、大分、宮崎、鹿児島
→人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。
- 象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い
：その他の県
→人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。



■大学進学者と比較すると、地元に残留する傾向が強い

- ・短期大学の特性として比較的地元密着の傾向が強く、大学進学者と比較すると地元残留率の平均が32.3ポイント高い。
- ・全国平均でガイドラインを引き4象限に分けると、以下の通りになる。
- 象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い
：宮城、東京、神奈川、愛知、兵庫、岡山、福岡、大分、鹿児島、沖縄
→人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。
- 象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い
：北海道、福島、群馬、長野、石川、岐阜、大阪、徳島、愛媛、高知
→18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。
- 象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い
：栃木、埼玉、千葉、静岡、滋賀、島根、広島、山口、香川、熊本、宮崎
→人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。
- 象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い
：その他の府県
→人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。

